

表紙, 目次, 漫録, 通信

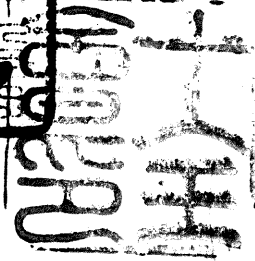
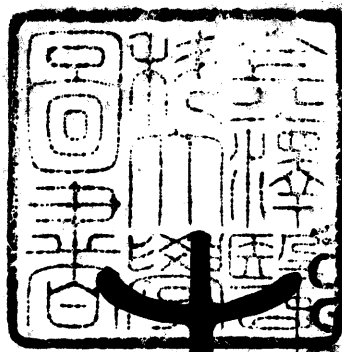
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38344

明治四十五年

日發行

自七二〇

第十七卷 至八三〇



全會雜誌

第十七卷
第一號
(第十七號)

全澤醫齒學專門學校全會

十全會雜誌 (第十七卷第十七號) 目次

○原著及實驗

●石川縣羽咋郡及鹿島郡佝僂病及骨軟化病調査報告。

宮田篤郎
鬼頭英一

○漫 錄

●佝僂病調査旅行日記。
●獨逸の醫者と日本の醫者。

岡田申吉
不曲書屋主人 元

○通 信

●韓清泉氏通信。●李廷權氏通信。●鈴木寛之助氏通信。

○内地 雜 報

●我國の「アルカリ」工業。

○校 内 雜 報

●醫科三年級會。●第四回小立野俱樂部。●箱、福田兩氏送別會

○叙任及辭令

●宮内省。●陸軍省。●海軍省。●金澤醫學專門學校。●石川縣。

○人 事

●丸山直友氏。●金澤醫學專門學校醫學士號認可。●四十四年度卒業生。●海軍醫學學生囑託。

○會 告

●校外特別會員會費領收調書。

第十七卷 !!

我が十全會雜誌は毎月發刊することになりたるにより便宜上卷數と號數とを區別するに至れり。回顧すれば我雜誌の創刊せられたるは明治二十九年にして十七年前なるが故に是迄の號數を追ふ外尙ほ此號より第十七卷第一號となし毎年一卷を完結せしむることゝなせり。



者 契 選 被 勞 功 業 事 生 衛
氏 晋 本 山
業 卒 校 本 年 三 十 二 治 明

時恰も昨年天長の佳節に際して旭旗軒頭に懸へらざるなく隨所の庠序洋々たる國歌の吟唱を聞くの時、内務省は傳染病豫防産婆看護婦養成並に救護事務等衛生事業に功勞ある團躰或は個人を表彰し夫々賞金獎勵金若くは助成金を下附せし内左の如く本校出身者を見たり今や風雲西隣に暴ひて警報頻りに至るに際し一衣水を隔てし春風和煦怡々然として太平の喜を俱にするの此佳辰に際し此表彰を見る洵に錦上添花を添ゆるの觀なくんばあらざる也

新潟縣北魚沼郡小千谷町

金 參 百 圓

醫 師 山 本 晋

氏は元治元年六月生にして新潟縣北魚沼郡小千谷町に住し、明治二十三年第四高等中學校醫學部を卒業し同年九月開業免狀を得て直に新潟縣私立共立病院長となり翌二十四年三月職を辭し爾來現住所に開業二十六年産婆組合の會頭となり三十一年北魚沼郡甲部醫師組合長三十四年八月より四十一年迄の間は同郡醫會長或は副會長とし四十年五月醫師會の成立するに際し更に其會長となり同時に産婆組合會頭、新潟縣衛生會北魚沼支部幹事を兼ね。此間氏が最も力を致せしは二十五年中同部内同業者と詢り私立小千谷衛生會を設立し幻燈會又は講話會を開催し一般衛生思想の普及に努力す功空しからず、縣に於ては北魚沼郡に縣衛生會支部を設置するに至り氏等經營の小千谷衛生會を開き諸新聞備品を擧げて縣の支部會に寄附す續て氏は同會の幹事に擧げられ三十年小千谷町衛生組合長となりては井戸便所溝渠整理に着手し町經營の汚物掃除下水浸灌等の事を組合事業に改め縣下小千谷の如く清淨なる街衢少きに至らしむ、殊に氏は常に産婆養成を念とし舊産婆の危險なるに鑑み潜心新制度の下に養成せし産婆普及を企圖し遂に三十二年來養成所を自營せんとし或は當局に其の急を訴ふる身に至り翌年一月小千谷病院内に講習所を開き更に同業有志者を勧誘し新に小千谷産婆學校を開設するの機運に到達し爾來今日迄其の出者九十餘名の卒業者中六十三名の試験合格者を出すに至る、又縣下地方病研究の一策として郡内同業者に對し患者統計表調製の件を提議し每三年一回必ず之を提出するに至り現に縣當局者の研究上に多大の便益を供し居れる如き或は慈善救濟の事を首唱しては戦役時出征者の家族分焼を無料に診療し、魚沼孤兒園創立に際しては全孤兒の施療を引受け或は小千谷諸學校生徒に對しては藥價の五割減を以て投藥を續行し或は又自宅に資力なき産婆志望者を集め科目を自ら講習し受験資格を得せしめ四十餘名の有權者を出せる如き或は政黨に入りては國民黨の有力者として縣議員に擧げられ常に醫政を論じ殊に新潟縣施設の衛生事業に就ては周密なる用意を以て利害を論じ全國中新潟縣が衛生施設の首位に列せる如き氏の力與つて多きに居る事勿論なりと云ふ。如斯して賞を受くる事數次、氏が家業同地方有數の名門今氏に依つて家門更に重きを爲す可宜なる哉。

2 出村 〇 ル	十二年七月 月ヶ七年	同胞八人内死 三人ナリ	兒期ニハ健 八歳ニハ種痘 麻疹十二歳 ナリ	八歳ノ時歩行 ニ異常ナリ	食糲榮養不 良	〇五	形狀尋常 大サ尋常	鳩胸チナ 鎖骨ノ彎 曲著明	胸椎 棘間距離 短	兩上膊 關節強 硬	兩手チ ナ	異狀 重 症
		歩行尋常	月	次歩行困難 ナリ	恒通皮膚濕 熱		五三〇 三〇	右肋彎 曲	腰 八〇	骨上膊 關節強 硬	膝ノ上 ニ支ヒ	異狀 重 症
		歩行尋常		骨折チナ メリ	一回體温 呼吸		其他異狀 ナシ	左腕彎 曲	腰 一四〇	膝ノ上 ニ支ヒ	膝ノ上 ニ支ヒ	異狀 重 症
				骨折チナ メリ	一回體温 呼吸		其他異狀 ナシ	腰 一四〇	腰 一四〇	膝ノ上 ニ支ヒ	膝ノ上 ニ支ヒ	異狀 重 症
				骨折チナ メリ	一回體温 呼吸		其他異狀 ナシ	腰 一四〇	腰 一四〇	膝ノ上 ニ支ヒ	膝ノ上 ニ支ヒ	異狀 重 症
				骨折チナ メリ	一回體温 呼吸		其他異狀 ナシ	腰 一四〇	腰 一四〇	膝ノ上 ニ支ヒ	膝ノ上 ニ支ヒ	異狀 重 症

漫 録

● 鬼頭兩先生能登地方尪病調査隨行日記

醫科四年生 岡田 申吉

八月廿三日
昨夜來の雨暗る
午前六時半下宿
出發
午前七時半發金
澤至羽咋
自羽咋經飯山中
川至神子ヶ原
飯山にて饗食中
川にて二名神子
ヶ原にて廿五名
福善寺にて宿泊

廿一日の午前のことなりき、恩師鬼頭先生は能登地
方尪病調査に従はざるやと仰せられたり、自分は
未だ嘗て該病を見たることなければ、こよなき機會
と思ひ手の舞ひ足の踏むところを知らざるほど嬉し
かりき、先生には恩師宮田先生と御打ち合せをなさ
れ調査は山なれば旅用として空氣枕敷布浴衣など整
ふべきと尪廿三日午前七時三十分出發と宣ひき。

廿二日の晩は脚伴鮑生蕃のつるが如き綱等を食るの
に踏處を廻りやがて下宿へ歸れば低氣壓は石垣島に
あり東海道北陸と進行し明日は盆を覆すが如き大雨

主人の語るも可笑しかりき夜半善夢に覺醒され篠つくばかりに降りしき
り調査第一日は終日雨を友とするか憾概に堪はざりき。

明くれば廿三日空はれ元氣に満ちて金澤驛に向へば同行の高橋兄は既に居
られ眼は幸福に充ちて輝けり、

己にして羽咋驛に至れば巡查部長殿の御出迎ありて恩師先生も共に歩を進
め給へ、道すがら患者の生活状態、人文、地理、氣候の關係は如何等の念
に驅られつゝ中邑知村字中川村に來れば自井國手の御案内にて二人の骨軟
化症患者を診察せらる、一人は重症にして四十歳前後なるも十二三の子供
の如く脊柱の後彎も甚しく立つこと能はず横臥するのみなり、嘗て或る病
院にて「カストラチチン」を施されしものならむに疾病の快復せざるを以て
見れば「カストラチチン」も餘り効なきものゝ如く、かく皮切りの場合かゝ
る重症者あることなれば以來尪重症にして趣味津津たるもの多々あらむと
は恩師両先生及び自分等の思ふ處なりき、出づれば斷雲ちぎれに飛び
今にも降らむとす、飯山に至れば若校三十九年かの卒業にして近隣を風靡
せらるゝ自井濟氏ありて前記自井國手の令弟たり此處にて中食の饗應を受
け後雨を浴びつゝ神子ヶ原福善寺に至る其間鈴木秀英氏の御案内にて北邑
知村役場に調査につき種々の打ち合せありき、福善寺は近郷十四ヶ村に
於ける巨剎にして幽邃閑雅盛夏も尪其の暑さを知らず患者の來り診を乞ふ
もの廿五名(調査日數短時日なる爲め各家ごとに調査するを得ず)中にも

該病の疑似症或は「脊髄スポンジリチス」肘關節結核ありて恩師先生の御繁忙驚くべきものなり、該病常に鳩胸或は念珠を有し骨端の肥厚〇脚〇脚を供ふ如何にして骨質石灰分の消失せらるゝか思へば醫學の進歩未幼稚なるを覺ゆ、調査の終りしは午後八時過ぎ五体は冷汗を以て蓋はれ沐浴の心動くこゝ切なり、やがて風呂の準備なりたるを申し來りたれば恩師阿先生御入りあり後高橋兄の入浴中鬼頭先生風呂桶につきて御話あり蓋をされば圓形の板浮き甚だ奇異に感ぜられたり宮田先生洪笑せられこれ彌次喜多の所謂地獄風呂なり恩師及一行彌次の轍を履まざりしは勿怪の幸なりき。

八月廿四日
朝雨午後晴る自
神子ヶ原至菅池
患者約三十人
中邑知村字中川
村赤痢病隔離舎
乞雨先生診
志雄村の旅館に
投宿、今晚甚だ
蒸し暑し

して其後の經過真好以て東京地方に出稼きたるもの一名(女及妊婦一名(十七才)ありき新患は凡て二三才より四五才にして幼時「つゝら」に入るゝ爲めか或は骨營養神經に依るゝも甚だ興味の湧くこゝどもなり、北山方にて中食を馳走せられ白井氏方と同じく席上「茶碗むし」ありき昨日は如何にやしけん折角の「茶碗むし」も手をつけず大いに笑はれければ本日こそは江戸の仇讐は長崎にて打ちたりと興じつゝ來りたるに俄然道を失ひ巨岩轉り草木は折られて山崩れなりしこゝを知れり一分にても早く來らむには不慮の災害を蒙りしものなき程なく千石村に來り二名の舊患あり疼痛甚しければ各一筒の「アドレナリン」注射を施さる、患者は婦人にして先年金

澤病院に入院し宮田先生の治療により輕快し喜び歸りたるものなるが其後風土の關係にや又々重りたりと、こゝを立ち出で志雄村木津旅館に來る途申雨先生には中邑知村中川の赤痢病隔離舎に赴かれ吾等は一足先きに宿舎に着けり今夕前記鈴木長谷川兩醫の鑿應を受け後寢に就きしも蒸し暑く睡られざりき。

八月廿五日雨
午前九時發志雄
至北志雄村患者
十五名此處にて
中食
午后至南志雄村
字新宮八名あり
新宮至羽咋途中
腹膜炎患者將に
死に垂んさす

によりて投薬を願へしものは二名を數ふるに至る、これによりても未開の地たるを知らむ(投薬とは或る丸劑を原價にて金澤病院より受くるもの)役場にて中食を馳走せられ南志雄村宇新宮西福寺に至る集るもの十五六名にして御傷病の高度に加へて痴呆の如く發語の不完全なるあり或は骨軟化症にして骨盤、胸骨に疼痛を覺ゆるものあり之には「アドレナリン」の注射をなさる等其外股關節の「コントラクトール」及び縁内障の患者を診察せられ四時出發す

此處には以前膀胱結石を病み宮田先生により一命を拾へし老人あり茅屋にて茶を献せんと申したるも其の暇なきを告ぐればいさ惜しきことなりさらば庭にても通りくれよとて恩師先生及一行堂々通りたることありき。

浦雨益々降り羽咋町宿舎に入るも止むが如き徴なき。

八月廿六日
昨夜來雨晴れず
如何なる宿業にや天公未怒り解けず豪雨昨夜より連續す。

午後晴る
 自羽昨至良川
 自良川過般若野
 至和倉
 途中田鶴濱を過
 き大井川式珍事
 あり

羽昨町には一人の患者ありその報告あれども其の眞ならざるを以て良川に向ふ。「千路」驛を過ぐる頃邑知瀧上白鷺の点々として殆ど一幅の畫、加ふるに雨晴れ數日來雨に封ぜられたる吾が胸中、万斛愁自から消ゆ万念うせ魂魄さろけて我物ならぬ如く覺ゆやがて良川驛に着けば七尾警察署より部長殿案内の爲め來られ、洪水の爲め徒歩すること能はず途に人力車にて道路に水の溢るゝを拂ひ般若野村の患家に赴きぬ、此處には入院希望のもの一名ありて開化の程度志雄に勝る數倍なりき、駐在巡查の言によればこの地方尙僂病を稱して「コンゴリ」といふ又一つの奇言たるを失はず、中食の過ぎたる時談偶々先年金澤病院に入院恩師宮田先生の手術を受けたる畢丸の象皮病に及び部長殿が患者の村の駐在所を巡視の際聞きこれを訪ね病院に行くを進めたりと其頃話題となりしは患者の田圃を歩くや一溝を残し其形大にして重量九貫なれば汽船の海中を航して一條の道を殘すに似たりと誠に抱腹絶倒せんばかりなりき、三時四十分といふにこゝを立ち出で濁水氾濫して地上に及び車輪は恰も水車の如し車上下夕日を肩にしつゝ田鶴濱を過ぐるころ水量頓に増加して橋上も尙股關節をかくさんばかり其上小堤防の押し流されければ恩師西先生及び吾々真裸体となり村人と共に漸く車を差し上げ一丁ばかりの水道を渡りて或る茶店に憩わり、此間一朝足を滑べらせんには忽にして濁流滔々たる渦中に巻き込まれ能登海中魚族の解剖材料となりしものをと今にして思へば立毛筋の働くことと過敏なり同行の高橋兄と共に昔の大井川もかくやあらむとのじりあへき。やがて車は空を馳けるが如く遙か彼方に七尾の海岸夕靄中に明滅とし傍らの小山には女郎花のやさしく桔梗の重たげに頭を傾け吾等を送るが如き様なり、和倉に着けば燈火のこともされ患者も集り居らざれば明朝のこゝしなし床に就く。

八月廿七日晴
 午前五時和倉海上
 ポートに漕す
 患者三名
 午後一時三十五
 分出發七尾に向
 同時に歸宅
 投票を願ふ者一
 名右胸部に稀有
 なる血管豐饒性
 肉腫患者あり

に精神病者ありと恩師先生に御願いたし喜ひ見んせしも嫌と言ひて來らすされば主婦等五六名吾れに診を乞ふ、醫者にあらざる旨を述べしも聞かず又さなき御方の附き人なれば何卒と云はれしには大に閉口せり、午後になり一時も過ぎければ七尾に向へ六時過ぎ金澤驛に着きぬ
 四日間の調査も終りぬ特に原因を極めらるゝにあられば知るよしなければ唯患者の多くは兒期或は學童に來り上肢下肢等は畸形を呈し主に營養不良に陥るも却つて意識明瞭伶俐にして十四五歳に至れば治癒に趣き骨軟化症の如きも轉地によりて輕快するも故山に歸れば再び増悪するを見れば或る一種の「トキシシ」により抵抗の薄弱なる小兒或は婦人の腸内にて自家中毒の爲め營養神經の犯さるゝものならむかの感吾が胸中に湧きぬ。(終)

● 獨逸の醫者と日本の醫者 (承前)

不曲書屋主人

▲ 地方或は村落に於ける開業醫の得失
 ●●●●●
 地方村落に於て治療の時期を失し、或は治療看護の法を誤る所以は、次の

理由に基くのである。第一地方人の貧乏なると(尙ほ全く吝嗇の爲なるものあるを忘るべからず)第二醫者の處迄遠距離なること第三看護に就て全く無識なる爲め第四救急法或は普通の負傷處置法に就て全然無識なる爲め第五看護に要する器具の全く缺乏する爲めである。以上の理由により死亡率の減少は都鄙大いに趣きを異にして居る、即ち市街地に於ける死亡率の減少は著明であるが、地方に於てはソでない今普國に於ける都鄙の人口千人に付ての死亡率を示して見よ。(死産をも含んで居る)

年	市街	地方	年	市街	地方
一八四一—一八五五	三、五	一八、一—一八、五	三〇、八	三、五	
一八五六一—一八七〇	二、九	一八、六—一八、七〇	三、七	三、四	
一八七一一—一八七五	三、〇、八	一八、七—一八、七五	三、四、一	三、四、一	
一八七六一—一八八〇	三、四	一八、七—一八、八〇	三、三、二	三、三、二	
一八八一—一八八五	三、三、四	一八、八—一八、八五	三、三、二	三、三、二	
一八八六一—一八九〇	三、三、三	一八、九—一八、九〇	三、三、二	三、三、二	
一八九一一—一八九五	三、三、二	一九〇一—一九〇三	三、〇、七	三、〇、四	

▲都會地に於ける開業の得失

都會には醫者の多過ぎる結果、生活が申々困難である、ラーベール氏に依れば、獨乙國に於ては千八百七十六年には人口三千人に付き醫師一人であつたが、千九百三年には獨乙諸市街に於て醫師に最も好都合の市街地はブレンにして、人口一千八百四十三人に付き醫師一人であるが、最も不良なる所はシヤロテンブルクの人口三百七十三人に付き醫師一人と云ふのである、若し人口三千人に付き醫師一人と云ふ位が適當とすれば、シヤロテンブルクは八倍、伯林は四倍程醫者の過剰がある譯である。

加ふるに都市に多くの疾病金庫があつて、其住民の幾割を成して居る職工は何れも疾病金庫醫の所へ行く、加之らず大都會には何れも立派に組織されたる施療病院や、外來診察所があるから、開業醫の得意とては唯だ中等社會の一部と、上等社會とが残り居るだけである、是れ實に都會地に於て開業の困難なる所以で、又た從來の如く家庭醫と云ふものは漸々必要が

なくなつて來た、夫れくの專門家を患者自身が撰び得て、別に家庭醫に撰擇して貰ふ必要もないからである、

村落に於ても、市街地に於ても醫者の開業は左様に容易のものでない事が明かであるが、學と業とに忠實に勉強さへすれば、相當に門戸は張り得られるのである、殊に日本に於ては支那及南洋等に醫者の出稼地を持つて居ることは非常の幸福である、今日の處では日本人の居る所に丈けしか日本の醫者は出稼して居らぬけれども、今一步進んで醫者が植民或は出稼の先驅者となることを希望する、唯だ從來は多くは日本に於て失敗した醫者が殆んど亡命的に出稼するに云ふ状態であつたから、出稼地に於て信用を得ることは甚だ困難であつた、第一人格に於て、第二技術に於て、第三は亡命的の腕一本の人々であるから勿論其地に於て一定年月日間其門戸を張り耐ゆる資金なるものが無い、爲めに轉々して到る處不義理の借銭や破廉耻の記念を残すに云ふ次第となるのである、然るに相當の技術を有し、相當の資金を有して入り込めば、必ずや其土地に於て信用を得らるゝのである、希くは青年の醫者健康なる醫者、外國語特に英語を解するの醫者は、大に奮發して出稼せよ、蝸牛角上の争は決して男子の本懐ではなからう。

専門 醫

獨乙醫師同盟會は、専門家を稱するには、一定の條件が必要だと云つて居る。ホルマン氏は『専門家は一般の醫師的教育と共に特別な學術的及實地的素養によりて醫學の一定領域内に於て特殊の智識を享得し以て一般開業醫に卓越し同業者よりは其科に於ける「アウトリテット」と認めらるゝ、醫者を云ふのである』と説て居る、却説此の専門家を標榜するものは、千九百一年には獨乙總醫師數の八分の一に達し、人口四萬五千以下の市街地に於ては人口十萬に付三十四人八分(即ち人口四千三十二人に付一人の専門醫)又人口十萬以上の都會には人口十萬に付四十人三分の専門醫(即ち人口一千六百五十八人に付一人の専門醫)あるの割合となつて居る。但し

此の専門醫の内には、一人で二つ或は三つの専門を標榜して居るものがあるから、實際の数は之より少いのに違ひはないが、兎に角其數から云ふても、専門醫なるものは醫者社會に於て、重要なものは明かである。

今此の専門醫なるものの性質を解剖して詮索し行けば、甚だ千差萬別である。成る程前述せるヒルマン氏の定義の如き専門醫のあることは勿論疑ひないのであるが、又一方に於ては所謂假性専門醫なるものも存することも否認し得ないであらふ。此の假性専門醫は一名六週間専門醫とも稱する所の者であつて、多くは開業資格を得たる後一二月大學のクリニクに於て、或は他の外來診察所に於て講習をしたるに止まる。甚だしきは全く此等特殊の講習をもせず、某々専門なる看板を掛けて其科には特殊の智識、技術上の能力を有するが如く粧ふて患者を集め、此の患者に就て初めて専門的智識を習得せんとするものもある。又近似せる専門分科、例へば鼻病と咽喉病、或は精神病と神経病、或は皮膚病と生殖器病を同時に専門にするは理解し得らるゝのであるが、多數の専門を有することを公衆に示すが如きは、其愚劣を示すに過ぎないのである。

一般醫は齒科醫たるを得るや否やは、一の疑問となつた。然しながら口腔及齒牙は、人間の臓器なるが故に、一般の醫者は之を治療するの權利もある、又義務もある、唯だ『齒科醫』と稱する免許規則もあるのであるから、一般醫が『齒科醫』と云ふ稱號を用ふるは不正當であるが（齒科醫の免許を取らざれば）若し一般醫が特別に齒牙及口腔の疾患に就て教育されて居れば、前段の専門醫の解釋により『齒牙及口腔病の専門醫』と稱し得ることは勿論である、齒科醫が一般醫の齒牙の疾病を診療するのを以て自家の權利を侵害さるゝ如く思ふが、之れは大なる誤りである、殊に一般醫は實際に於て齒科試験を経て『齒科醫』なる免許を同時に受くることも易々たることであるが、一般醫は當然齒科の診療をなし得る道理だから、免許も受けられないのだ、日本でも近く横濱に於て此の問題起りしが、大審院に於ては

遂に醫師は齒牙の診療をなし得ると云ふ判決を與へた、是れは當然である。日本に於ける専門の問題は、矢張り八釜敷い、併し獨逸に於けるが如く如何なる教育を受けたる者は専門醫と稱し得るかとか或は一般醫と専門醫との業務の限界を定めんとする如き進歩した問題はない、是れは若し獨逸風に三ヶ年間其専門に従事研究せし者ならずば、専門を標榜せられぬとせば日本は現在の専門家の大半は専門醫なる名稱を剽奪さるゝ様な次第なるからである。

▲官醫及軍醫

官醫は全然官の職務のみ執行すべきか、或は否らざる方か官醫其者に取及公衆にせりて利益なるか云ふことに就ては、種々爭論されたが、此の議論は矢張り兩面から觀察するを得るのである。官醫と云ふ公けの身分を有する醫者が、全く個人的の醫業即ち治療的行為を行ふことの出来ぬと云ふことを實行せしむるは困難なり。

實際日本に於て官醫殊に警察部に勤務する醫者に開業を許すことは大に考慮せねばならぬ。第一開業を許す爲めに、開業が本職であつて、官醫の方は内職的となつて居る、例へば東京の各警察署に勤務して居る醫者は、何れも開業をして居つて、警察の方の仕事は内職的に、一日の内に二時間、三時間しか働かない、何か用事があれば電話で呼び出されて出掛けるとか、往診の出掛けにか、或は歸りがけに警察へ一寸顔を出すと云ふ様な次第である。是れは給料が安い爲めで（警察署勤務の醫者は檢疫委員と云ふ名で卅五圓から五十圓の間）止むを得ない様な譯であるが、是れは極めて不經濟であるのみならず、首都の衛生警察の上より見て、是非改革する必要があらうと思ふ。若し經費が許さぬとされれば、二人の俸給を一人に與へ其たり開業を許さず二つの警察署に勤務せしむるがよろしい。

軍醫、普魯西國では多く伯林の「カイゼルユルヘルム、アカデミー」(即ち陸軍々醫學校)で養成せられるので、極めて一小部分だけが豫備役より現役

に編入されるのである、バイエルン及ザクセン兩國には、別に軍醫を養成する軍醫學校と云ふものは無く、皆な一年志願醫として、半年の勤務をしたる實地醫或は豫備の衛生士官より採用するのである、ウエツテンベルグには、稍々伯林の軍醫學校に類似するものありて、年々一定数の學生を收容して居る、今參考の爲めに「カイゼル、ウエルヘルム、アカデミー」の入學規定の概要を述べて見よ。

入學の條件として。獨乙の國籍にあること、軍隊勤務に差支なき證明、殊に視力の健全なること、年齢は二十一歳なること、身長一、六七迷突以上、中學校卒業證書を有し、且つ一年志願兵適任證書を有すること、夫妻の出なること(私生兒は資格なし)父或は後見人は衣類の外在學中(十學期間)は月々四十マルク、書籍料として三ヶ月に五十マルク、志願兵の武裝料百マルク、下級醫及助手醫期間(三年半乃至四年半)月々少くも三十マルクの補給をなし得ること等である、入學試験の六ヶ月前に、軍の軍醫總監に志願書を差出す、其志願書には學校長の證明書、軍醫の體格檢査證、及履歷書の添付を要する。

アカデミーの學生は拾學期(五ヶ年である)間の修學の後に、一年志願兵の半年勤務と共に下級醫に任用せらるゝ、而して此の下級醫の儘にて伯林の王立シャリター、即ち大學附屬病院に派遣せられ、茲で國家試験を受け、斯くて再び下級醫として二三ヶ月間隊附きをしたる後助手醫に任ぜらるゝのである。

豫備役より現役軍醫となるには、一年志願兵として半ヶ年の勤務をなす間に、志願により現役下級醫に任用せらるゝのである若くは志願兵を終了したる後豫備役の上級醫として所屬の指令官に上申するを得るのである。

「カイゼル、ウエルヘルム、アカデミー」に在學して軍醫となつた者は、九ヶ年半は陸軍に勤務するの義務を持つて居る。又豫備役より軍醫となりたるものは、政府より千五百マルクを收得するも、爲めに五ヶ年間勤務の義

務が生ずるのである。現役の助手醫が軍醫となるには約六ヶ年を要する。今俸給を擧げて見れば、

日本軍醫

獨逸軍醫

三等軍醫	四〇圓	Assistenzarzt	三八圓
二等軍醫	四六	Oberarzt	六五
一等軍醫	七五	Stabsarzt	一一三
全 上	九〇	全 上	一六三
全 上	一〇五		
三等軍醫正	一五二	Oberstabsarzt	二二二
二等軍醫正	一八三	全 上	二三一
一等軍醫正	二四五	チエチオンスアルツト	二三八
軍醫監	三二五	Generalarzt	三〇〇
軍醫總監	四一六	全 上	三二五

(尙ほ詳細は昨年七月發行の十全會雜誌にあり)

以上の俸給の外に宿舍料、職務俸、食卓料等を支給さるゝのである、海軍々醫團は全く陸軍とは關係はない。

以前は軍醫の學識に就ては多數の公衆より疑はれたのであるが、現今は軍醫の學術的及實地的教育は充分満足すべきものである、蓋軍醫を絶へず病院或は研究所に派遣して補習をなさしめ或は外科の手術、衛生及細菌學的の講習をなさしめて居るからである。

軍醫が開業をなすことは自由である、從て此の權利を使用せんとするものは、開業に先つて其旨を所屬の官醫に通告すればよろしい。但し開業をなすからには總て醫師の身分法に従ひ、殊に報酬は開業同僚と同一てなければならぬ。而かのみならず、軍醫にして疾病金庫醫として開業するものもある。然れども是れば軍醫なる本務ある爲めに、金庫醫の職務を充分に行

ひ得ぬと云ふ不都合がある様である。
海軍も亦大體に於て陸軍と同様である。

▲官醫の地位

官醫は如何なる仕事をなすべきものであるか、を知らんせば勢獨乙國の衛生官廳の組織を一言せればならぬ抑も憲法の規定による行政の一部なる衛生警察は、内閣に内務大臣の職務に屬する、從て獨乙衛生院は獨乙國の衛生官署として内務省内に設けられて居る。而して衛生院は醫事及獸醫警察に關する法律の實施を司り、又統計事務も所管して居つて次の各部に分れる。

(一) 醫事部

(二) 科學的試驗部

(三) 細菌部

(四) 獸醫部

衛生院の諮問機關で目下は九人の委員より成つて居る、此の委員は毎五年に聯邦會議に於て選舉されるのであるか、何れも卓越せる學者及聯邦の醫事行政の主腦者が撰ばれるのである。

此の組織あるが爲め獨乙帝國は聯邦の衛生立法に干與するを得るので、殊に醫事制度の組織、衛生行政、及其實施に關し、獨乙帝國より命令したる規定は、各聯邦に適用さるゝのである。

普魯西王國にて、醫事局には諮問機關として醫事委員會、藥劑技術委員會及藥局法委員會なるものがある、殊に醫事委員會は、高等醫事吏員、醫學及化學の教授、並に醫師會々員より成り、總て醫學上に於ける成績を考量して、之を實際生活上に利用し、公共衛生の領域内に於ける弊害を除去するに務むるの外、總て醫務大臣の諮問に對して應答するのである。

普魯西の各州には諮問機關として、州醫事協會なるもの、州長官に屬し居て、之に醫事行政を委任して居る。但し衛生諸般の事項を執行すべき者は、

地方長官である。此の地方長官には參事官或は醫事官なるものが附隨し、衛生警察の制度を監督し。次に區では地方議會が醫事衛生警察を指揮するのである。但し其法律上の條項及諸規定を實行する所謂實務者は勿論地方警察官署である。却說此の地方議會の技術上の相談役、及元來の衛生吏員

と云ふものは、區醫である。而して市區に於ては、此の區醫は警察官署の相談役にして地方長官に直屬して居る。又區醫の勤務區域は普通區の區域と一致して居るが、唯だ餘りに廣き區では、數多の區醫區に分ち、又た小なる區では、二三の區が集つて一つの區醫區をなすことがある其他市區に於いては、市吏員として任用されたる市醫に區醫の職務を委任することが出来る。然らば區醫の任務は非常に重且つ大なるものである。先づ區醫は所屬官廳の請求に從つて衛生の諸般の事項を鑑定せねばならぬ、次に區委員又區會に出席して其會の要求あれば意見を提出し、質問に應せねばならぬ、其他其區の衛生狀態を斷えず充分に視察監督して、住民に種々の警告或は訓諭等を與へねばならぬ、加ふるに衛生法及之に關する規定の實施に努力せねばならぬ、或は病院其他衛生上に關係を有する建設物産婆藥劑師及治療助手其他助手等に多大なる注意を拂ひ監督をせねばならぬ、或は所屬官廳に對し、衛生上に弊害あるものを、之を排除すべく、衛生上に緊要なる事項は之を新たに起すべき意見を提出せねばならぬ或は特に學校醫の設けなき所にては、區醫は學校醫の職務をも行はねばならぬと云ふ様に其任務は極めて廣汎である地方議會及地方警察官署は、衛生に關して警察規則其他一般の規定を發布する前には必ず區醫の意見を徴されねばならぬ、殊に公衆危險病即ち傳染病の確定及防遏に關して危急の場合には、區醫は所轄官廳が、別に規定或は命令を出す迄、一時的の規定を命ずることが出来る。斯くの如くして區醫の任務極めて多大なる區に於て一人或は數人の區醫助手を設置することを得るのである。

普魯西國に於ては區醫の下に傳染病の確定及豫防に役事すべき細菌検査官

吏を設置するもの愈々多數となつた。

區醫は市町村に於て特別の規定の下に設けられて居る衛生委員會に列席し、且つ此の衛生委員會を召集し得るのである。

其他尙ほ區醫の義務として列擧すべきものは、區醫の受持ち區内に開業或は廢業する醫師は其都度之れを區醫に通告せねばならぬ。區内に於ける開業醫と協力して非醫者を監視し、非醫者の有害なる所爲に就て、公衆に説明を與へねばならぬ。又警察衛生配水汚物掃除河流の監督、食物の賣買等區醫職責に屬するのであるが、殊に傳染病の豫防及撲滅は區醫の最も緊要なる問題である。常に傳染病の發生經過に注意し、流行の虞あるときに流行の侵入を杜絶するの法を講ぜねばならぬ。而て傳染病患者或は死者届出義務の規定に違反する者あれば、之を告發して所罰せしめねばならぬ。

次に種痘術に就ての監督、及び痘苗製造販賣の監督も亦區醫の職責内に屬して居る、加ふるに娼妓、屍體檢案、屍體運搬墓地等の監督もせねばならぬ、或は屍體を發掘する場合に法廷の命令によらざる場合には毎に區醫の鑑定を要するのである。

工場製造場の認可にも區醫の協力を要し又患者、廢疾者精神病者癲癩白痴の看護所育兒院等をも監督するの義務がある。

公衆共同浴場游泳池の設立を促し、療養溫泉療養所等の衛生状態を監督するの義務である。

其他王國或は帝國官吏の勤務に服し得るや否やと云ふ健康上の鑑定、夫れから運輸途上に在る囚人の疾病診療、地方の貧困者(區或は區委員會の要求により)の救療、政府の恩給規定により、下賜金ある者なれども未だ手續きを了せざる爲め困却し居る下士及兵卒の疾病診療、帝國官立或は公立學校入學の際に要する健康證明書、又以上所管の勞働者として採用さるべきもの、健康證明書、傷害保險事件に於て裁判官の前に於て鑑定をなす等も亦區醫の職分に屬するのである、何ぞ其職責の多數多様ではなからるか。

斯くの如く區醫は其區の衛生官吏である許りでなく、其區に於ける裁判所醫でもある、從て特に裁判醫として任命さるゝこともある。區醫は又痘苗製造所試験所、或は區病院等の所長或は院長を兼ね、或は又監獄醫を兼ねることもある、去れど斯くの如き幾多の兼任の報酬に關して、區醫の頭上に壓迫が加はる、是れは兼任の爲めに區醫の少き報酬を以て種々の任務を引受くる爲め、茲に開業醫の利益と衝突を起し、開業醫側より苦情が持ち上がるのである。

上述の如く區醫の仕事の廣汎にして其職責の重且つ大なるを思はゞ、嚮に述べたる區醫採用試験の面倒なる理由は自から分かるであらう。夫れと今日の普國に於ては、全俸給を支拂ふ區醫と否らざるものと二種ある、前者は其數僅に三十九人後者は四百六十九人の多數であるが、全俸給を受くる者は原則として開業を許して居らぬ、全俸給を受けざる區醫は勿論開業は許されて居る、而のみならず地方長官の承認を受けば、金庫醫となるとも出来る。如斯は普國の財政事情が、總の區醫に全俸給を支拂得ざる結果に過ぎぬが、是は漸々改良を要する次第と思はる。

獨逸の區は日本の縣より小さいが、區醫は稍々日本の縣技師に比すべきものであるが、其數から云へば警察醫にも比すべきである。

却説茲に屢々論議さるゝのは技師對衛生課長論である、即ち技師は同時に衛生課長とならなくてはいかん云ふ議論と、技師は技師者であるから専ら技術のことに意を用ふべく、事務の方は警部の衛生課長に任かすがよろしいと云ふ議論である、是れは兩方に理窟はあるのであるが、元來より云へば、技師は技師者として其職務に従事し、天職を發揮するのが至當であるのであるが、今日の如き衛生課長たる警部の指揮命令を奉し、且つ其同意を得れば何事も出来ぬと云ふ組織では、勢技師をして衛生課長を兼ねしむべしと云ふ論が出て來るのである、去れば此の點に改革を行ひ、技師は知事に直屬し、警察部長は技師の言を聽き、其意見により之れを衛生課長

へ命令し、或は技師が直接衛生課長へ命令し得る様なれば、技師は必ずしも衛生課長となる必要はないのである、斯く技師の地位と權力とを上昇せしむるには、是非とも學術技能の秀てたるものを技師に任用する必要がある、彼様にするには、技師の俸給は圖庫より支出することとし、知事に直屬するものとするなれば、此等の改良は出来るのである、今日の如く縣會に於て其俸給を左右し、技師を放逐せんせば、其俸給額を減し、若くは削除すれば足りるのであるから、勢技師も自己の主張を曲けても議員等の感情に融和して行かねばならぬと云ふ様な破目にも立ち至るのである。従て今日に於ては、此制度を改革するとは極めて必要である、是非技師の俸給は國庫支辨とし、其地位を高め其地位を安固ならしめ、衛生事務を擧げしむること云ふとは、甚だ緊要のことと思ふ。(未完) (醫源時報抄録)

* * * * *

通信

●韓清泉氏通信 (松原教授宛)

(四十一年卒業。浙江省病院長)

謹啓御半紙難有拜見仕り候

扱て御承知之如く弊省の革命は小戦にて能く成功仕り候間負傷兵は至つて少なく重傷患者十五名入院治癒せし處今や全部全治退院致候

其中右胸部貫通銃創一名、右腰部貫通銃創一名(腸には損傷なし)右臀部よ

(通信)

第十七卷 第一號

三五

第七十二號

三五

り左臀部に貫通する者二名右腿膝部より左大腿後面に貫通する者一名(此患者漸く近日に)其他は殆んど大腿及下腿前膊の貫通銃創、近距離に於ける戦争になりし故、銃創は殆んど貫通、盲貫銃創は一名のみにて御座候此外に爆發彈の爲に後頭骨粉砕せられ腦髓腔流出せる者一名及び前頭部銃創一名何れも入院致直に死亡致候間痛心に堪へず候

三年級に居らる、張君は赤十字團員として鎮江に勤務中と聞く(南京に近き處)南京城は遂に一昨日を以て陥落せり東南の基大に鞏固、因に臨時政府を南京に建設するの議有之候

南京戦争に負傷せる兵士は後送明日到着と聞き此より一寸忙かしく存候本回の事件に際し大に看護婦養成の必要を感じ弊院發起として看護婦養成所を病院に附屬して開設し看護婦百名を收容し六個月卒業の予定にて愈々來週より開始することに相成候

湯君は本省代表として一週前に武昌に趣く湯君は實に醫者としての政治家たりと存じ候

先は此で失禮 草々敬具

陰曆十月十五日

中國浙江省杭州。羊市街浙江病院にて

門人 韓 清泉

松原先生 大鑒

福田君、石川君、石澤君、一同御宜しく

諸先生御宜しく御傳言被下度候

●李廷擢氏通信 (松原教授宛)

拜啓小生等は諸先生の御教育を相受け諸同學の多大なる同情又は援助を貰ひ今や我が民國に活動致し宛々愉快堪へず候此度の革命に付き博愛的事業は一ならず曰く……赤十字會曰く……紅十字團曰く……赤十字社

名儀種々、人員色々、外國人、内國人、就中西洋留學生日本留學生男子或は女子より組成り實に競争の有様に候日本留學生より成立てたる一團は残念ながら〇〇〇不足の爲め獨立を得ず今や已を得ず沈仲禮にて有力なる人の率たる中國紅十字會に加入致し候博愛丸にて上海に上陸する際主として千葉、岡山、長崎、大阪、京都、名古屋、仙臺等留學生は各々母校より寄附し來たる藥品繻帶を車載し手に母校より貰ひ來たる赤十字旗を揚翻し宛上海市街を通過する利見物人々は皆日本帝國の同情に醜醉し稱導を置かざるを聽きたる吾留學生は愉快の感動堪へず候戦地尙未だ確定不申候南京方面へは既に西洋留學生赤十字社員占領に屬し陥落は相近付か候へば中清の戦争は遠からず平靜に着歸すべく將來北清方面に大激戦可有候吾人の活動地にならんか其詳細は尙後便に報告可有候茲に乞ふ小生の不文なる事を御原諒願申上候勿々

十二月二日
中國上海徐家滙福開森路中國防疫醫院内にて
中國紅十字社員 李 廷 擢拜

●鈴木寛之助氏通信 (山崎教授宛)

(廿九年卒業。海軍々醫中監)

遣英艦隊消息

「ツーロン」より第九信

「グリーノック」

は人口七萬市街は奇麗ではないが二百年以上の古い町で「クライド」河が修築され各種の工場が沿岸に發達するに伴ひ漸次其工業も發達し今では造船に次で精糖等の事業が盛に經營され本艦の泊地に近い所で建造されてる英國の「ド」型戦艦、「コロツサス」(「ネプチューン」)姉妹艦で二萬噸二十

二節十二吋砲十門)は其大部分竣成し大きな砲塔の重つて居るなど間近く見れて居た

此地の最も誇りとするものは蒸汽機關の發明者「ジェームスワット」を出てゐることで彼は一七三六年(百七十五年前)此地に生れ長じて「グラスゴー」に學びて二十八歳にして蒸汽機關を創製し爾來百幾年世界は其大なる恩恵に浴しつゝある

入港後間もなく在留同胞(極めて少ないが)が來訪歓迎に就て打合せられ其豫定に従ひ候補生以上は翌日から幾組にも分かれて「クライド」沿岸の造船工場及び「グラスゴー」市内の各種工場を見學した、此地附近にある各種工場の内我海軍に縁故のあるのは「朝日」を建した「ジョンウラウン」會社、我驅逐艦の多數を造つた「ヤーロー」會社、「ウィツカー」會社と密接な關係ある「ヘアドモア」會社(現に「パロー」で造つて居る我新艦の材料を造りつゝある)世界各國の海軍に距離測定器を供給して居る「パー、エンド、ストラッド」會社、「トムソン」即ち「ロードケルビン」の發明品殊に艦船用の羅織儀等を造つて居る「ケルヴィン、エンド、ヂェームスホワイト」會社其他「パウコック、エンド、ウィルコックス」、「フエーヤフィールド」等ノ諸會社で到る處の各會社工場總音勇しく烟突から吐き出す煙も活々として活動して居り我々の視察に行つた所では喜び迎へて親切に案内してくれた、騎士官の一部は南西に距ること四十哩「ファースオアクライド」の岸近き「ステウンストン」に在る有名なる「ノベル」の火藥製造所を視察した「ノベル」は無煙火藥發明者で「ノベル」賞金を以て其名を世に知られた人である

東郷大將一行も丁度「グラスゴー」に來着されたので市長以下市民及び現時同市に開會中の蘇格蘭博覽會の當事者等大に歓迎の意を表し七月十三日夜は同大將を正賓として博覽會内に市民及び市長の晩餐會が催され我長官以下多數出席非常に盛會又同大將及び長官等は諸種の工場を視察され「ウラウン」造船會社に行かれたとき同大將は其請に應じ同所て建造中の「キスー

ナード」會社の大汽船「アクキタニヤ」(五万噸の「キール」に壓搾空氣利用の機械で一本の「リベット」(釘)を打込まれたネード)

我隊の下士卒は二十三日の阿日半艇員宛「グラスゴー」市の招待に由り午後一時發の特別列車で入市「セントエノック」停車場から電車に分乘市内を巡覽し博覽會を見物し場内で茶菓を饗せられ大いに歡待され夕方歸艦したが大分面白かつた様である

在泊日數は少なかつたが工場會社が多數あつて之を視察するのこ歡迎見物等に遺憾なく利用するを得た此所で「クライド」河の槌音を聞き分けて見よ一、此槌音は昨日や今日に起つたものでなく由來を聞けば大分古いもの便宜上

「クライド」と「グラスゴー」

こ一所に交へて聞くこととする「グラスゴー」は八百年前から開けた處で「クライド」河が交通の用をなし微々たるものであつたがこれに新生命を與へたのは千四百九十三年の亞米利加大陸發見である爾來此地は此新世界に向つて貿易交通の衝に當り煙草や砂糖の輸入盛となり漸次發展した其眞の發達は實に過去二百年の間に於て遂げられたこと云ふ

「グラスゴー」は「クライド」を造り「クライド」「グラスゴー」を造れりとは「グラスゴー」の最も誇りとする所を示せるもの實に「クライド」は「グラスゴー」の大動脈である「グラスゴー」は日に月に繁榮して來たが「クライド」河が淺いために出入の船舶は皆今の「グリーノック」附近に泊し物資は皆解舟で川を漕つたものである之を不利不便とし千七百六十八年「クライド」河底淺漂の計畫が企てられ爾來今日に至る迄河底の淺漂河岸の修築が幾千万磅の巨費を以て間斷なく行はれて居り「グラスゴー」市内數十年前迄は矮屋茅舍草の繁るに任せた様な所に立派な家が出来る工場が建てられる埠頭や棧橋が築かれると云ふ風に寸時も休むことなく努力の結果は五十年前廣さ三十間深さ三尺しかなかつた「クライド」河今や廣さ八十幾間深さ三十尺を

測り現時世界の如何なる大船巨船も儘に容るゝを得るに至り其上「グラスゴー」に於ける埠頭の長さ九哩に及んだ、而も斯く淺漂した長さが二十哩を下らぬことを忘れてはならぬ初期には「グリーノック」から二哩餘上流の「ボートグラスゴー」まで船を入れ得る如くし漸次上流に及ぼしたと云ふ話又最初の計畫の時は「チエームスラット」が測量をしたなど云ふことも一寸面白ひ話である此努力の結果輸入が百万噸から九百万噸となつた其他直接間接市に及ぼした利益は蓋し測り知るこが出来ぬ、大なる活動には大なる準備を要す大なる効果を収んと欲せば大なる努力を吝む可らず、今日「グラスゴー」が英國第二の大都として英國造船工業の要地としても又蘇格蘭商工業の首府として九十万の人口を有し英國造船の三分の二を引受け愕然世界の大商工業として天下に睥睨する所以のもの其由來や遠く深く堅忍不拔の強き根氣、不斷の努力と準備の美果である物に倦み易く熱し易く冷し易く根氣薄弱なる欠点を有する吾人日本國民は「グラスゴー」に就て大なる教訓を學ぶを得可しと思ふこれ殊更に長々しく此記を爲す所以

一年間出入船舶一万二千隻三百七十万噸輸出入總額三億五十万圓商業地として既に大したもの之に加ふるに「クライド」兩岸十數哩に亘りて建連せられた造船造機其他の工場の一年間の仕事と云ふものが又大きなもの一八二二年に「ヘンリーベール」の造船所で進水した三馬力の一小汽船「グリーノック」に「グラスゴー」間を航行せるものから出立して九十年後の千九百二二年に製造した船舶三百十二隻五十二万噸四十六万馬力に達したと云ふ其進歩の如何に大なるかを知るこが出来る而して現に我艦の入港當日「クライド」沿岸の工場で建造中の船舶百五十隻と數へたる此中に前に記した英國戦艦「コロツサス」の外「コシケラー」も含まれて居る、造船業の外各種の工業が盛に發達して居て輸出品としては綿布、毛織物、硝子類、鉄、鋼、機械、石炭等がある造船が盛であるために單に船舶用の一小機械一小備品等を製造するがために大なる専門の會社が幾つもあるこれが常に改良に苦心

するから機械や品物の進歩して行くのも無理はない、日本の如く一會社一工場で何も彼もやるのは恰かも家を建てる壁を塗る、戸障子を造る壁を作る其他總てを一人でやると同じで大工、左官、建具屋、疊屋と何もかもやらねばならぬ様なものであるから上手になるこの出来ぬは勿論立派なもの、出来ぬのは明らかでない。此点は響る羨むべきものと謂はねばならぬ。一つ記すべきものがあるそれは市の水道事業で「カツリン」湖から約四十哩の距離を二重の水路により水を引き來り一日の供給量一億一千万「ガロン」で其規模宏大なものである。

「グラスゴ」市は大きく家も立派であるけれども美しくはない倫敦に似て稍黒く煤ぼけて居る市の内外煤煙笛音等に會せぬ所はない併し活動は盛である電車、馬車、自動車、地下鐵道など休みなしに動いてる而して此の市の行政は行届き整頓してゐる。これは世界的に模範市と稱せらるる程瓦斯燈水道、公開浴場洗衣場模範的合宿所等市の經營する事業の重なるもので世界に於て市政を研究せんとするものにして「グラスゴ」市を窺はざるものはないと言はるゝ位ひ我名譽領事此所にあり倫敦から四百二十哩急行列車八時間「エティンバラ」迄四十哩汽車一時間餘で達する此所から南西約四十哩入る「アイル」云ふ所がある有名な蘇國の詩人「ロバート、バーンス」の生れた土地で今猶其家が保存され旅客の往て訪ふもの多いと。

蘇格蘭博覽會

は「グラスゴ」市「ケルヴァイン」公園に建設され今や開會最中である其目的は「グラスゴ」大學に蘇格蘭の歴史及文學の講座を設けたためである。中々立派で規模は大は云へぬが大成功であるらしい、日本の出品としては一二の商人が勸工場の一箱内に出陣して許り併し入場者の注意を惹いてる様に見受けた又三笠等と稱する粗造の朱塗の神殿の様な形をした建物の茶店があつて日本人の經營に係り給仕は英國の女が日本服を着てやつて居たが格好が奇態で吹き出し度くなるものであつた。

蘇格蘭は其昔獨立國で南方「アングランド」さ長い間對立し相戦つたものが遂に英國に合併せらるゝに至つたけれども國民は今猶蘇格蘭人「ハイランド」(高地の人蘇國は山國で高地多い故斯く稱する)と稱し昂然として英國の外に立つと云ふ様な風を示し自國固有の習俗を何處までも維持し國粹保存をやつてゐるのは面白い。蘇國人の風習で一番眼に立つものは其兵士が一種異様の風をしてくる。こゝである。歴を露はし腰の廻りから肩にかけて其盤目の大きな縞の大風呂敷の様なものを掛け腰の前面には美しい毛胴丸を下げ竹で作つた樂器をヒューヒュー吹きながら行進してゐる其風姿が一種古雅な優美な趣を備へて居る而して小さな子供なども此の風をしてゐるのがある。其意味には關係なしに國粹保存國風維持と云ふことは賛成する。時は七月の中旬我日本は夏の眞盛り學校は夏季休暇の期節である然るに吾々は北英國に在つて遂に夏の熱きを感じない衣類は全然冬着冬服、天氣は快晴風の微動すらない時でも冬着で結構少々暖かい様でそれなんて丸で春の日和に挨拶する様な調子それも其管緯度が高い即ち北緯五十五度五十一分三十秒樺太の北端よりも約四十哩北方に相當してゐる、但し草木は緑り滴らんばかりによく茂つてこれ丈けば夏らしい、緯度が高いから夏の日の永い。今朝は二時二十分明るくなる夜は十時過ぎて未だ日が暮れぬ此の間の四時間も全く眞暗さはならない、未だ明るいからなんぞさぼんやりして居ると寝る時がなくなると云ふ工合斯ることに慣れぬ吾々には一寸珍奇に感じた、「英國は金が溜る筈だれ」「何故」「夜がこんなに短かいから朝から晩まで働けるしをまけに夏は暑からず冬寒からず來て衣物が要らんかられ」「成程れ」などの問答も起る、然れども御心配御無用夏は日か長いが其反對に冬は頗る短いこれは地文學で先刻御承知の通り冬ならば「英國はこんなに日が短かくてよく金が溜るれ」と全じ人から質問が出るかも知れぬ。

閑話休題、我艦隊も一通り仕事を終り七月十四日正午出港、「ローサイス」に

向つた「クライド」の河灣を南に下がり更に西へ北へ轉針英國北端を廻るべく進んだ夜一寸濃霧に會したが數時間で霽れた。

十五日は土曜日大掃除を行ふ、元來艦内は平日朝起きると先づ甲板を洗ふそれから寝るまでには箒で掃くこと十幾回其上中甲板下甲板は一日一回拭ふそれでも汚れるそこで毎週土曜日には必ず大掃除を行ふ中甲板下甲板下の普通の普通乗員の起居來往してゐる部分の總てを洗つたり拭ふたり丁寧に掃除し上甲板は砂摺りをやる、小さい格子とか腰掛、踏台の如き木具類も砂摺りするこれを終つた後は艦内は實に奇麗である斯くて翌日曜日の各種の点檢の用意の一つが出来上るかく掃除しても艦内全部隈なく行き渡らぬ故倉庫とか特別に定められた場所などは金曜日又は木曜日と云ふ風に別の日に掃除して置く。

倉庫

と云つても一つや二つではない砲術科とか水雷科とかそれ／＼科によつて納むべき品物を異にし場所も異にするを要す即ち幾と云ふ倉庫が艦の底部に多く設けられ各倉庫には倉庫番なるものが居て庫内の整理物品の出入記帳等を受持ち掌る、品物の出入などはくだらぬ布片一枚釘一本でも精細に記録するを要すこれが毎會計年度を期限として詳細に報告され中には會計檢査院まで出て行くものもある中々面倒なものでして倉庫は之を格納して置く所て其整理、手入、保存と云ふものが中々蒼蠅、一寸した案牘でもこれを失つたために直接、間接艦の戰鬥力を左右する様なことがある倉庫番も面倒なもの云ふべく是に當るべき下士卒は頭腦の綿密な良いものが撰抜される倉庫は入口が廣くないつまり艦の何れの部分でも鐵板に大きな孔を開けるのは好ましくないからである又場所も艦の構造上不便危険な所もある而し何れにしても容積の利用は實に巧みなもので其場所が三角形なら三角形細長ければ又其通りと言ふ風に何れも其形状に相應する如く棚を作るやら列へるやら吊るすやら幾何學的に利用されてゐるのは陸上の家屋の容

積の餘裕充分なものに比べると驚くべきものである

さて此の日は天氣があまりよくない、雨が時々降る濃霧がやつて來る艦位の確知できぬ様な時もあり油断が出来なかつた艦は英國の北を東に進みつゝある夜に入りて霧雨又來り四邊何も見ぬ行手には「セントランド」の狭水路あり潮流は強く盲滅法に通るのには頗る危険殊に時は夜半そこで速力を緩めて行く○○○○○○○○○○天明雨少しく霽れた故元の道を進み午前九時(十六日)頃英國最北端の難所「セントランド」水道を航過す次で英艦「プロンテ」に會し禮砲の交換を行ふ此邊が今回の航海に於て最北の場所「セントランド」水道が北緯五十八度四十三分、これより右折南下、此日英艦と會して禮砲交換三回に及ぶ昨今英國海軍は演習最中で此邊に英國巡洋艦の出沒するもの多く夕方までに會した英艦六隻に及んだ、靜穩か海上を南西に向ひ蘇格蘭の東岸を航過し十七日早朝「フォーズ」ガブ、「フォース」に進入し又英艦と會し禮砲交換午前九時四十五分名も高き「フォース」橋の下流北岸の近く投錨した陸上の光景近くに高山はないが蘇格蘭一流の宜い景色殊に南岸「ロースベリー」郷の邸地の如き數哩に亘つた大なる公園の如くである

「ローサイス」と「フォース」川

「ローサイス」ハ本艦隊が訪ふべき港であるが今泊して居る所は「ローサイス」より數哩下流の北「クエンフェリー」と云ふ所「ローサイス」までは橋が邪魔になつて廻江出來ぬのである

「フォース」川は源を「グラスゴウ」北方の蘇國湖水地方の「コン」湖に發し「カツリン」湖より流出する「テイス」川を合し東流百三十哩「フォース」の河灣に注ぐ川は「フォース」橋の下流から俄かに其幅を増し「フォーズ」ガブ、「フォース」(「フォース」河灣)を成し北は「ファイネス」から南は「ダンパー」の間に狹まれて居る、廣さ二十哩の灣口まで三十哩ある其間灣口に「メー」灣口から約二十哩の上流に「インチキース」の二島が浮んで居る川は

「クインスフェリー」の所の幅が最小で一渾、中流に「インチガルルビー」島を控へ此所に「フォース」橋が架つて其昔北蘇國東部の鐵道は廣く且つ深き「フォース」川のために鐵橋を架することの困難からして此川に於て中斷さるゝの不便に長い間苦んだが遂に技術は此障害を排し七年の歳月と日夜五千の人と三千五百万圓の巨費を以て長さ八千呎即ち一渾半餘の長橋を架設し千八百九十年三月開橋式を擧ぐるに至つた長さ一渾半ののみ言つたのでは驚くに足らぬが橋の主部五千三百五十呎が深さ二百呎以上の河上に在つて三個の臺上(中央の台は「インチガルルビー」島の端を利用して)に立ち橋桁下面まで百五十呎の高さを有し橋台の最大間隔千七百十呎のものが川の中流に相連つて船舶の通航に供してあることを考へ更に其の形を見るに成程世界に於ける大工事の一として名高い丈けのことがあると頷かれるのである然らば其形は如何にさ問はれると一寸返答に困るが長さ約千七百呎高さ三百六十呎で角の取れた菱形の橋桁が三個相連つて橋の主部を成し菱形の下面は少しく上曲りの曲線をなして居り橋桁は澤山の鋼鐵管を蜘蛛手十文字に組合はせてあると書いたら少しは概念を興へ得るかと思ひますが如何でせうか

橋の北袂が北「クインスフェリー」南袂が南「クインスフェリー」で南の方にある「ダルメニー」停車場は橋から近く「エティンバラ」には此所から乗車して行く川の兩岸が高い故橋の高さを前記の如くする必要があるので百五十呎より高い橋を有する艦は上橋を仰さなければ上流に行くことが出来ぬ而して現時新式の巨艦は其の橋の高さ此の橋下を通過し得るものはない本艦も亦然り「ローサイス」を自指して來ながら「クインスフェリー」に碇泊した所以は此所に在りだ

「ローサイス」は「フォース」橋の上流一渾半川の北岸にある一寒村で河岸の岩上に古い城趾があるのみ餘程精密な地圖でない記載されて居らぬ此所へ英國海軍で新たに軍港を建設することとなり今や大規模の計畫を以て工

事を進めて居る、英人の流儀として最初は小規模漸次大規模に擴張する様なげちなことはせず最初の計畫は即ち最後の計畫で思切つた大規模の計畫を樹てこれを一方から着々やりつゝある其工事は天然の港を修築するのではなく全然人工で大なる港を造るので例によつて根氣のいゝこと夥しい、此所から海上の距離獨逸の「キール」運河西口まで四百八十哩「ロンドン」は四百二十哩丁抹の北端「スカーゲン」まで四百八十哩何れも二十節で一日の航程しかない

「エティンバラ」

「クインスフェリー」の下流八哩にある「リース」港に内接し「フォース」川から二渾の奥にある換言すれば「リース」は「エティンバラ」の港である「ダルメニー」から「エティンバラ」の「ウエヴァーリー」停車場迄瀟車僅かに十八分歐洲都市中最も美しい所として世界に名高い、此地の歴史は大部分蘇格蘭の歴史で又歐洲都市中最も面白く小説的のものである従て善く知られて居る故下手に書くの必要があるまいが「ガイドブック」の記す所を摘んで見れば今より千三百年前「ノーザムブリア」王「エドゥイン」が城を築いたが此の都の抑もゝの始まりだ云ふ

昔し蘇國の首府はずつと北方の「パース」に云ふ所にあつたが四百餘年前「エティンバラ」に移つたのだぞ蘇格蘭の幾多の趣味深い歴史は英國との戦争及之に關係したことが多きを占めて、千七百二十年七月英蘇合併條約により合同する様になつてからは空しく往事を語る故郷となり徒らに歐洲最美の都として見物されつゝあるさりながら蘇國人の意氣は前にも記した通り依然國風を守つて居る、兵士が青き赤黒などの大きな碁盤縞の「ズボン」を穿ち「ズボン」と同じ布で作られ鳥の毛のついた奇形の帽子を阿彌陀に冠り白革の「バンド」を着けて居る所などは外の土地では見難い圖である、爾來兵燹の厄に遭つたこともあるが漸次發達して今や三十六万の人口を有し印刷、出版の業では英國第一の稱あり、英國の大なる書籍業者で

此の地に關係を有せぬものはないと云ふ話、對稱頗る奇妙なものも一つの名物が「ツキスキー」であること、世界の本家本元丈に其醸造所が澤山にあつて蘇國全体の産額年二百万石を越ゆると聞く、世界の土戸能くも此の強い奴を飲み干すと謂ふへしだ而して「ツイスキー」が滅法に廉價である此段上戸諸君に報告に及ぶ

市街は丘陵谿谷に據つて造られ起伏凸凹多く茂れる樹木よく之に配合し倫敦「グラスゴー」の如く煤烟に汚されることがないから景色は中々によい殊に暮色蒼然古城頭に下り爛熳薄く市上を染める頃「ガルトン」の丘又は城頭に立つて四方を下瞰する時は全然油繪を見る様である天明日出頃の景色も善いそだ斯く言へど日中の景色が宜しくないと言ふのでないから安心あれ名所は「エティンバラ」の古城「スコット」記念碑博物館「キングス」公園「ガルトン」丘の「ネルソン」記念塔「ヘリス」の築港大學校に美術館である最も繁華な「プリンセス」街に沿ふて「プリンセス」街東公園に「スコット」記念塔がある其近くに有名な時計がある直經約二間黄綠紫紅の花や草で色別けをなし針の長さ五尺位ひこれが本當に動いて正しく時を指すのが奇妙有名なる蘇國の詩人「スコット」は此地の産、湖上の美人「などが其著く名高いもの、一つである「スコット」を有せることは「エティンバラ」否「スコットランド」全体の誇りとする所「ホーリールド」王宮と言ふのがある昔の蘇國の王宮で今猶王宮として用ひられ皇帝行幸の時に所在所となる現に英國皇帝、皇后兩陛下、皇太子殿下が蘇國御巡幸中十七日から二十日まで此宮殿に御駐蹕あらせられたが古い宮殿で面白い古への名品に富んでる云ふことだ

古城は全市を下瞰する大岩塊の斷崖上に樹ち谷が即ち天然の濠大手の方が僅かに平地で跳橋に依つて交通する外四方皆攀ぢ難き絶壁要害無二の名城今や「ハイランド」聯隊の營所となり居り縦覽隨意である、堅固に築かれた城頭數百尺の高き上つて眺望するまこれは又特別全市を識別し「リース」

から「フォース」の流れまで一目蘇國田舎の光景も見へて如何にも美しい景色、此の城北麓の谷の底に「ウェヴァリー」停車場があり其上が美術館と大學校である此の地は高低が甚しいから谷を渡つて低市街の上に市街が造られた所が多い、うつかり歩いて居ると何時の間にか足の下に又町がある様になる云ふ風である

此所の博物館に日本部がある色々ものを能く集めて居る又機械館に入るま各種大小の機械類の内部を見ゆる様にし箱の外に出て居る手輪を廻はすま其機械が動く仕掛が出来て居る、小供が来て動かしてゐるのを幾人も見掛けた教育上誠によい仕方と思つた

「エティンバラ」は皇帝御駐蹕中のこと、で全市民奉迎に忙しく我艦隊などに係り合ふ違がないので歓迎の意はありながら思ふに任せぬを遺憾とすと言ふて來たま聞いたが十九日市の公會堂「アツシヤ、ホール」の礎石掘付式に、皇帝、皇后兩陛下臨御親しく式を挙げ給ふ、之に長官以下數名招待されて出席拜觀し又二十日「ホーリールド」王宮に於ける陛下の園遊會に召され長官以下數名出席、陛下から長官以下に夫々親しく御言葉を賜つた

英國皇帝陛下は王者として威嚴犯す可らざるものがあらせらるゝ共に又頗る平民的に渡らせられるのは難いことである、英國の國風として、皇帝陛下皆斯くあらせ給ふ様に思はれる

下士卒は「エティンバラ」が陛下御駐蹕にて混雜してゐるため同市に行くことは許されず「グインズフェリー」に一回宛上陸せしめられた「グインズフェリー」は極めて小さな町で附近「フォース」河の景色がよいので名を知られてる所此郊外に出ると蘇國田舎の景色が眼のあたり見ることが出来る、此所に小さな下士卒集會所の様なものがあつて色々色々傾耳を興へて呉れた二十日午後八時、拔鐵佛國「ルアーブル」港へま向つた我艦隊六月十日を以て「ポートルランド」に入り「スピットヘッド」の觀艦式に列し無事派遣の大任

を卒へ英國諸港歴訪の途に上り到る處好意と歡待を以て迎へられ同盟の誼を温めて茲に四十日、今や英國最後の港を出づるに當り親切にして好意ある温情に富める英國の人に感謝の意を表し別を告げ忘れんことを欲して忘るゝ能はざる大典の紀念を東方郷國への土産として繪の如き此國の景色を後に南下英吉利海峽へ向ふ。

遊子何ぞか感さか昔の人は謂つたが遊子ならざる吾々も多少の感懐なくばあらずである。

も一つ御土産は蠻からの揃ひ所々で黒毛布の赤毛布の色々毛布を演じて居るだらうが是は決して忘るゝことなく我人共に持つて歸るゝと思ふ、これが最も得難い御土産である、笑ふ勿れ色々毛布を是あるがために我が日の本は強いのである、毛布を演ずる点に於て國民の意氣を見るを謂ふべし毛布連意を強ふして可なりだ。

軍 艦 鞍 馬

横須賀より終信

「カイロー」

は埃及の古都五千年の故跡を存して古代埃及の榮華を語る處蘇士からの漣車は一望際涯なき砂漠の中を走る、風なきに砂塵濛々として來襲見る案内一面に白く堆積する、實に酷いものである、カイロー「附近は變る意想外に善く耕されて綿、玉蜀黍が培へられてる」「ナイル」河の恩恵に政府の努力を加へた結果だと聞いた、所々泥濁の小流があつて水牛や驢馬など浴してゐるのが見へる「カイロー」に着て停車場を出るなり「ジャバニス」へ「何處迄も執念く附纏ふ土人の案内者の蒼蠅いゝと影しい」

「ピラミット」(金字塔)は「カイロー」から「ナイル」の濁流を隔て、南西約十哩の「ギゼン」村ある三基が最も名高い(電車で、一時間)此三基中「ケチツプ

ス」王が四千六百年前に建てたと云ふものが現存の數十基中最大なるもの高さ四百五十呎(以前は尙三十呎も高かつた)底礎は正方形で一邊の長さ七百五十呎と稱せらるる十万人夫が二十餘年を費し「ナイル」を隔て、對岸の山から切り出した二百五十万個の巨石を用ひて建てたものだ云ふ、表面は遠く「ナイル」の上流から運んだとか言はるゝ花崗石で覆はれ平滑であつたが後年建築材料として之を他に持ち去られた爲め今では表面凹凸となり鑿登に便利になつて行々電車の窓から汎濫して「ナイル」河の水に映する亭々たる椰子の疎林と共に金字塔の削影が見ゆる光景宛として描ける様だ、塔は砂漠の裡に立つて居る僅かの時間で三基の塔や「スフィンクス」(獅身首像)を見るこゝが出来る「ケチツプス」塔に登つた疊々相重れる石は高さ胸に達す不規則に凹凸して居る間を石端を足場として登る案内の「アラブ」(亞刺比亞土人)が手を取つて引上げやうとする其態度の人を馬鹿にしてるのが癪に障り單身氣息の苦しいのを我慢しつゝ反對に「アラブ」を引張りながら先登第一に絶頂に達した石上に踞して玉なす汗を拭き「千里の砂原を吹き來る風に涼を納る」「アラブ」曰く「先登第一で愉快だらう」「ウ」愉快だ」「アラブ」語を次で曰く「さらば其實として一志餘計に矣れ」「馬鹿アツ、貴様等の御蔭で登つたのじゃあない」と罵れど言葉が不通「イエスサー」と猶手を出して居る

眼を放ては土塊の集合「カイロー」の街は縁に圍まれて砂上に浮び「ナイル」の巨流は兩の方「メンフキス」の古都の彼方雲煙渺茫たる間から現はれ來り今猶古來名物の汎濫の一斑を示して一大潮水を現出し「カイロー」からの通路坦々として一道高く此上を横切つて居る他の二基の塔は眼下にある長さ百九十呎の「スフィンクス」の如きは砂中に埋もれて善くは見ぬ、西の方「サツラ」の大砂漠は脚下に起り遠く天に連りて際涯なく波の如く起伏せる砂丘は蜿蜒千里蔭輝之に映して天を染め更に砂を彩り遺憾なく壯大雄渾なる大陸的光景を呈して居る四百五十呎云へば羅馬の「サン、ビエトロ」大寺

院の高さに同じく巴里の「エツプフェル」塔の半に少し足らぬが頂上の眺望は珍奇彼に幾倍である一休みして下る時間を要する事三十分足らず、更に塔底に入る「アラブ」曰く「頂上に登り又内部に入るのは過勞を來していいい」と「何をんなことがあるものか」と歩めば滑倒しさうな急斜な石段を下へへ行く行き詰つて上る内部は黒暗で「アラブ」の携へた燭火を頼りに或は懸崖を攀ち或は急坂を登り最初に女王の室、次に更によつて礎底上二百尺の高きにある王の室に入る共に木乃伊を納めた所其木乃伊は現時博物館に持ち去られて残るものは王の室に石棺の様なものがあるばかり陰森の氣人を襲ふ内壁は花崗石を疊み上げたもの訪ひ來る人が名を刻せるため壁に一寸隙もない、日本人の名も幾つか見へた、塔底は百餘呎の深きに達し昔は「ナイル」の河水が通ずる様になつて居たさうだ、此大石塔を見て之を造つた時代、埃及人は確かに何處か大きな所があつたらうと思はれた又風餐雨蝕五千年の猶儼然として其形を存し内部は此巨量を負ふて立ちながら煙める礫、獣める石、些少の變位も緩みもしない点を考へて其技術に驚ざるを得ぬ外に出れば日は既に砂原に没して暮色靄の如くに來た、蒼蠅く附纏ふ「アラブ」に銀貨一つ二つを投げて追拂ふ、七日の鎌月は暗れた西空に懸つて色物凄く四面砂漠の寂寞裡三角形なせる五千年の巨塔を斜めに黒く照らし椰子の葉は婆娑として遙かに凄い獸聲を聞く期せずして此の凄涼の光景に接し感興油然一句なかるべからずと言つたが出ない間に電車「ナイル」河を渡る「カイロー」には多くの故跡がある中に「マホメット、アリ」か建てた寺がある外観は泥を捏り上げた様であるが庭は一面の大理石を敷つめ本堂内は金碧燦爛蠟燭の代りに白熱電燈を使つて寺さへ思へない蓋し寺の最も「ハイカラ」なるもの斯る寺は廣い世界に類稀れてあらう又博物館がある埃及古代のものを見得るだらうと思つて往つたが大失望、木乃伊だけは一寸珍らしいのがあるが其他は大したものがない埃及人が愚圖々々して居る間に各國に持ち去られたものである英佛以埃の至る所の博物

館、隨分小さな所までが相當に埃及ものを持つて居るのを見て、之を一室に集めたら、嘸立派な觀物であらう面白いことには「カイロー」博物館に親子の木乃伊が揃つてゐるのがある「ラムセス」二世の如きは其一例吾輩は木乃伊を見る度に此人々を再び活かして今の世を見せ埃及の現狀を見晴さしたら嘸面白いだらうと思ぬことはない、却譯艦は淡水を搭載して

二十九日午後

古倫母に向ふ南航して緯度の變化が日に三度半、紅海は其特色を發揮して今度は暑いと覺悟して居たものゝ愛憎が盡きる程暑く太陽は赤緯南でありながら中々猛烈に照らしつける日向でも日蔭でも何處に居ても動かずに居てすら汗がだら／＼と出る一擧手、一投足も汗だ此際此時朝から晩まで教練だ氣温は百度を超へて誰れの着衣も汗が滴る衣になれば蕤風呂の裡に寝てる様で苦みながらも鍛練をやる十月四日に演習が開始された臨戦準備合戦準備戦闘、曰く何、曰く何と活動は平日に幾層倍し暑さも非常元氣も非常此夕方「バベルマン、デア」海峡を東へ亞丁灣に來た、五日は此灣で兩艦の對抗演習、打放つ空放は砲聲股々として亞細亞、亞弗利加兩大陸に響き暑氣拂ひとして至極適當な、亞丁沖に至れる頃同地在泊の英艦「メディア」が伊土兩國の開戦、帝國は嚴正中立ち云ふことを無線電信で取次いで知らせて呉れた、演習第三日亞丁の沖に漂泊中上記の英艦の出で來るに會して交砲の交換をやつた亞丁灣に來てから毎日風があつて暑さも減じた、常陸丸に會し丹後丸に逢ひ又邂逅した一英艦から伊土戰況を聞く位が變化ある方で毎日平穩な航海を續け十五日古倫母に入り炭水糧食を補充し十八日新嘉坡に向ふ風濤稍大、二十二日迄は「ベンガル」灣、天氣は曇り勝ち時々雨も來たが「マラック」海峡に入つてから天候回復、兩艦の恒例檢閲を行はれ、二十五日

新嘉坡

に着いて同胞に迎へられたが虎列刺、赤痢など流行してゐるので上陸は許さ

れず生糧品も無論取ることは出来ぬ。是には聊か閉口した、流行病あることは古倫母で聞知し糧食も其積りて搭載しようとしたが、時日の少なかったため充分なるを得なかつたのである、これに想ひ起すが去る八月佛伊諸港巡航中流行病ある地方が多いため「ツローン」で積んだものを三週間ばかり食はされ「ヒューメ」に来て生糧品にやつと臭氣をついたが困らされたものだ、艦内に貯蔵の糧食は三月や半年を支ふるに充分ではあるが之に依れば戦時非常の際のこま今頃無理に罐詰などの御厄介になるのも氣が利かぬ生物を取るこまが出来ぬとあれば止むを得ぬ此所で最後の

閉塞郵便物

を受取つた長く遠航の途上にある沖を最も楽しいのは故國からの音信である港に着いて待たるものは郵便物の到着である横濱と神戸とが扇の封印ある大きな籠が着くと澤山の有志者が出て撰り分けて呉れる、一片の葉書、一葉の新聞紙でも来たことなれば嬉しきものよみ／＼と發信者の好意を感するのである往路初めて古倫母で閉塞郵便物が来た時には非常に珍らしかつたが其後時日の變化と共に益々之を歓迎するに至つた今や其最後のものによつて故國の状況を語るに餘念なし滯泊四日三十日朝在留同胞と堅き握手に別れを告げて愈々最終寄港の地を出て横濱實に向つた時は北東信風の期無風帯も微風あるので割合に涼かつたが二日頃から北東の逆風漸次力を加へ巨濤來襲激浪舷を叩き甲板上に迸り煤煙は甲板に近く走つて不愉快此上なし

天長節

には熱帯地ながら正服で遙拜式以て御眞影を拜し正午皇禮砲を行ひ長官以下士官室に會して盃を掲げ萬歳を三唱して聖壽の無窮を奉祝し午後は各種の運動競技に元氣を競ひ山の如き波、櫓に呻る猛風も大に興を添へた、新嘉坡出港後台灣方面から無線電信で近事を聞きながら六日朝「バシー」海峡に達したか天候益々險惡陰雲凄愴低送して時々兩を齎し濃氣も深く近くに

見ゆべき台灣の南端も一向に見ぬ

靖國神社祭日

である即ち東向遙拜式を行ひ再び洋上に殉國の忠魂を祀る風波は暴れに荒れ澎湃として天日を呑み地を搖がして山の如き狂濤は唯一呑と襲ひ來り艦を簸弄すると嵐の庭の木の葉も管ならず一万五千噸の巨体も遂に

傾斜二十七八度

に達し波頭に打ち上げられては艦直立するか疑はれ亦腹の大部は現はれ推進器は空轉し其響は凄じく氣味悪く更に谷底に落さるや艦首は波の山に突込み水の巨槌猛打「ドシーン」艦全体墜ればせぬかと思はるゝ波は舷に激して高さ數十尺に達し旗竿を折り鐵樞を曲げ鐵鎖を絶ち十丈の浪屋一時に崩れて甲板を襲ひ艦上に急端激流を現はし十二吋砲塔も浪流に没するに至る人若し此所に居やうものなら艦外に持ち去らるゝか左なくとも命は浪のものとなるべく水沫は吹雪の如く狂風に飛んで艦橋を過ぎ煙突を越へ一歩誤れば首をも体をも取り去られんとする其狀痛快何に譬へ様もない、後より波に叩かれては激動更に草まり艦尾を採り取るかと思ふ許りである、海洋の大觀は荒天に際し初めて其雄偉豪宕の眞面目を發揮し來るのである千里洋心艦橋に立ち狂風怒濤と戦ひ壯快なる光景に接したものでなければ未だ以て海洋を語るの資格はないと謂ふべし

傾斜十五度を超れば徒手已に歩するに堪ぬ艦内は縦横無盡に索を張り纜かに是れによりて身を保ふて天候險惡の兆を呈するや艦は荒天準備をなしあらゆる移動物弱い固定物を充分に固縛し風濤に對する諸他の用意を行つてあるが猶油断はならぬ少しでも緩みが出來たら直ちに之を縛し直すこと云ふ風に艦の保安上必要なる手段に忙しくて規則的な艦内作業を行ふことが出來ぬ激潮は上甲板に溢れて昇降口などから中甲板下甲板に打ち込む前甲板後甲板は孔と云ふ孔は大小となく皆閉塞されて交通遮断艦内は何處も潮浸ならざるなく水上二百尺の櫓の項上すら鹽に塗られて白くなつて

晴雨計は急降する雲行きも益々物凄何日まで續くことやら判らぬ折から
櫓上に損所が出来た、風濤も動搖を冒して猿の如く攀登する水兵の大膽
敏捷なる作業によつて應急の處置が遂行された、台灣の鷲臺嶼は六日午後
濃氣の裡に微かに一寸見えた許り艦は危險を慮つて台灣の遙か東沖を北航
しつゝある本艦すら此の如し此狂濤の利根の状況想像するに餘りあり一
上一下浪に醜弄さるゝ該艦は丸で水中を突進する様であつたと云へば一番
判が早からう

此の如きもの前後通して九日である二日や三日なら未だしも一週日を超ゆ
るに至つては根氣負をせざるを得ぬ誰も一日も早く天候回復を望まぬ
ものはない斯る荒天に會して船艙にかゝつたものはないか云ふに九百六
十人中一人もない其故如何……平穩なる天氣が多かつたけれども既に外國
航海八ヶ月に垂んとしてゐる、弱いものも艦に慣れた故でもあるが一には狀
況が命懸けと云ふ点に近い爲めである、元來人間と云ふものは頗る横着に
出来て居て命に別狀のない時には船に酔ふが、いざ危急存亡の秋と聞くこ
今迄酔ふて死んだ様になつて居たものも飛出して働くと言つた様なもので
ある、船に乗つて酔ふのは心に未だ油斷があるからだ心に油斷がなければ
酔ひ度も酔へるものでない酒も飲まずに酔ふなんて不届きの骨頂である、
況んや酔つて嘔吐するに至つては此の米の高い時節に贅澤至極御天道様に
叱られると謂ふべきである、昔から此吐いたものを再び手で掬つて口に入
れる様でなければ未だ修業が足りないこと云はれてゐるもの、本艦には修業
の積んだものはかり酔ふものさへなかつた其上船が搖れる身体の調子を取
る丈けでも骨が折れる醜で腹が空る、飯が餘計に食へる不味いものも美味
くなる荒天も亦難有い哉だ

八日になつて天候回復の兆が現はれたが未だ風濤の方は衰へぬ此日未
明台灣の北端彭佳嶼の燈光によつて艦位を確かめ北東に轉針大隅海峽に向
つた朝突頭列島の魚釣島を東に認めたこれ此歸途最初に明かに眼に映じた

帝國領土の端である、愉快々々、所が喜はしからぬ事が起つて

水兵一人行衛不明

となつた、三等水兵菅原泰助と云ふ者が居らぬあらゆる手段を盡し荷も人
の入り得る處は皆人を入れ艦内隈なく搜索し五日に及んだけれど一向に見
當らぬ八ヶ月の榮譽ある航海を經已に帝國の領土に觸接し二三日で横須賀
に着けると云ふ此際此時行衛不明とならうとは誰か之を悲まぬものがあら
うか、平和なる艦内殊に本人の元氣で快活な平生から推しても様々調べ
た結果に見るも如何にしても惜しむべき命を自から縮めたものとも思はれ
ぬ、七日の夜半過まで見た者があること云ふから荒天の際まで或は其後に誤
つて海に墜ちたのではあるまいかと思はれるが誰にも譯が分らぬ、航海
中は夜間でも艦内は少くも全員の四分の一の人数が起きて居る、番兵も居
るから大概の場合には人の墜ちたのは知れるが非常なる荒天で疾風狂濤怒
號して十歩を距れば何の音も聞けぬ様な時には如何に注意するも人の海に
墜ちた位の音は聞けぬ、當夜は曇つた月夜であつたが無論少
し離れては物も明認出来なかつた、兎に角の不運は勿論家族か之を耳にす
る時の悲愁の様が眼に見ゆる様で其情察するに餘りある、吾人は深厚なる
同情を表すると共に光輝ある此航海の終に於て斯ることの起つたのを大に
遺憾とすると共に大に悲む

九日となつた正午時計を一時間進めて中央標準時に合はし白服は黒服とな
つた大分風て来た艦は琉球の西を行きつゝある、十日の朝九州の南に達し
屋久島、硫黄島、種ヶ島などが眼に入つて来た、海門岳は幾何學的の整然
たる形をして吾人を迎へてゐる、風波も人並まで直つたが氣温急降七拾度を
過ぎ大分寒さが知れて愈々御召更への時となつた艦で大隅海峽へ入り軍
艦葛城の東から來るに會して禮砲の交換を行ふ正午頃海峽の東口で

伊吹

の西航するに會し信號を交換し互に登艦禮式を行ひて別れた同艦が暹羅皇

帝戴冠式に列するに云ふことは新嘉坡で聞いたが此所で信號により佐世保に向ひつゝあつて十五日同地から出發するものなるを知つた、彼と我とは同型の姉妹艦一は英皇の戴冠式からの歸途、他は暹帝戴冠式に列すべく途に在つてゆくりなくも海上に邂逅す亦奇縁と謂ふべし

百里の道も十里となつて後の十里が五十里であるが一吋後を振り返つて見ても悪くはあるまい、八ヶ月の航海中樂の一となつたのは蓋音機である、隨分陳りものではあるが無聊の際には興を新にする効があるので誰にも親友であつた、併し閑餘これにて二萬方里の船の中になつて大分御稽古が始まつた

御蔭を以て度々拜聴の榮を擔ふと共に終始不味い味噌汁と漬物を食はせられた一利あれば一害ありとば夫れ之を謂ふべし

木兎先生台灣の南で艦を訪れ來てから早や二百有日、先生去つて紅海の小鷹子之に代つたが是等に縁があつてか今や艦上大分後繼者が居る曰く「リノック」の鳩、曰く英國の老犬曰く小犬曰く地中海の鵠、豪猪(ヤマアラシ)樹獺、鸚鵡、驕哥、それから小鳥と數へ來れば中々に種類が多い、宛然たる動物園の觀あり利根は犬に於て優り我は種類の多きを誇るわん／＼ぎや／＼／＼かあ／＼／＼はさばつば鳴聲も色々だ、鳩はよく馴らされたもの喜んで人の手に乗る小犬其名を「マルタ」三と言ふ「マルタ」で三志のものを一志に負けたから此名ありだ、近來急に寒くなつた爲めに毛の生へ方が間に合はぬのでぶる／＼震へてる、兎に角各種の愛嬌者艦が搖れると酔ふ奴もあるが大に無聊を慰めてくれる

一寸眼について一寸感じたことの中から二つ三つ御披露に及ぶ共和國の先祖佛國で階級なるものが非常に重視されてるのは寧ろ不思議、勳章を持つてゐる人が餘計尊敬されるなんてことは其形に現はれた一である日本で問題になつた犬の口綱が佛蘭西では盛に行はれて又英國でも他の諸國でも一寸した故跡まで大切に保存することに盡力してゐるが我國でやつてる様に、

せ／＼してないばかりか万人同心でやつてるのは感心で羨ましかつた

觀艦式當時各國の下士卒が一所に集つたことがあるが主人側の英國を除いては日本が他の諸國のものから尊敬されてたことは大に愉快であつたが、先輩の功業の御蔭であることを忘れぬのが肝要である横須賀を出て、八

閱月、日を重ぬる二百二十六、帝國海軍を代表して英皇陛下の戴冠式に次で行はれた大觀艦式に參列し十八ヶ國の海軍の間にあつて人目を側てさせ

其後英佛以奥の諸邦を巡航し寄泊したこ前後通して二十有八港、公私の歡迎招待を受くるも無慮百五十回に及んだ堅實勤勉で荷も人を許さない英國人優雅懇腰の低い丁寧な佛國人美術と殖民と地震と火山に特色多い以太

利の國民萬事陸軍式に何處にも油断のない奥匈國の人と所變れば品も變り習俗も異なる各國人と握手して交を温め國威を輝かし大任も無事遂行する

こが出来て今や横須賀に販着す眞に愉快と蓋し此の如きを謂ふのだ殊に懐かしき故國に販るに於てをやだ

大隅海峽から紀州大島一伊豆神子元島それから東京灣口と黒潮に乗つて「ホーハスビード」速く／＼と氣丈は大急ぎの全速力其間無線電信で「無事御歸朝を祝す」とか何か色々様々の通信を交換しながら御前崎の沖で

海風と富士とが西航するに會し明くれば十二日愈々今日は入港と早く起き出で見るに残念空は曇り樂みにして來た富士の影は少しも見えぬや伊豆

や相模の山々安房や上總の水陸は微笑みを以て吾々を迎へてゐる様に思はれる、午前八時觀音崎を過ぎ東京灣に入り艦で在港各艦の登陸禮式と海兵團

軍樂隊の勇ましい奏樂に迎へられつゝ

横須賀に入港

鞍馬は六番利根は八番浮標に繋留し茲に重任と榮譽とを擔つた遣英航海に終了を告げた時に午前八時四十三分航行里程實に二万六千三百五十浬吾人は此航海中各種作業の成績健康状態等が極めて佳良で又到る處各國の諸港に於て乗員の評判が万事に就て善かつたと同胞に知らし得るを無上の喜

ひさする十時齋藤大臣、山本大將、瓜生、坂本、松本、寺垣其他の諸將無事の飯朝を祝すべく來艦され大臣からは特に無事大任務を終つたを祝し且勞苦を謝する旨の簡單なる挨拶があつた來る人もく之を迎る艦上の人も喜色滿面久潤を叙し互に無事を祝し艦上は和氣春の如しちや午後二時皇太子殿下から田村東宮武宮を差遣され難有令旨を賜り隊員一同感泣致した、三時總員を後甲板に集め艦長から此重任を負ふた光榮ある航海を了つたことを祝されて一場の訓示があつた後四斗樽の鏡を敲き艦長以下九百幾人一同盃を舉げて無事の歸朝を祝した、唯一杯の酒ながら其一滴にすら千萬無量の意味が含まれてる「皆飲み干せ盃を倒に揚げ」と令せられた後甲板上忽ちにして九百幾個の盃の林が出来た天下の奇觀、時に驟雨沛然として來り一層の壯快を感じた、十四日下士卒の家族を招き無事歸朝の御祝を催ふし「永々御苦勞様でした」「いや留守中こそ嘸」と挨拶もすんた「訪ふた國は多く色々な特色ある風光習俗を見たが遂に我國に勝る所がなかつた矢張り日本が一番美しい江山洵美是我郷、嗚呼美なる哉我皇土茲に艦隊消息を終るに當り長々冗白駄文を列へた上に印刷も間違ひだらけであつたことを深く陳謝致す（完結）

明治四十四年十一月十四日

軍艦鞍馬ニテ 鈴木寛之助

内地雜報

●我國の「アルカリ」工業（京大吉川博士談）

我が國に於ける「アルカリ」製造に要する原料鹽は政府の專賣に屬するものにして課稅率も大なれば内地に於て「アルカリ」の製造は生産費に多額を要

し假令政府に於て化學工業の發達の爲め此目的に使用せらるべき天日鹽には特別割安の課稅をなすつゝあるも如何せん製造費の多額を要するを以て割安の課稅も反て有難味薄ければ余は鹽の特別稅を廢止せられんことを希望するものなり、内地に於て如此事情あるにより天日鹽より「アルカリ」を製造することは極めて困難なれば化學工業の發達を阻碍する事大なり、然るに方今外國より輸入しつゝある「アルカリ」の量は年々百三十万圓を下らず。然して我が國に於て製造せらるべき量は其の使用總量の三分一に過ぎず、其の他曹達となりて諸種の外國品に混ぜられて輸入せらるゝ量を合する時は實に莫大のものなり、されば「アルカリ」の製造は極めて必要なる事なれば一日も早く完全に且つ安價に製造したきものなり、然るに關東州の天日鹽は内地のそれに比すれば極めて廉價にして百斤の價額僅に二十七八錢なり、之「アルカリ」製造に大なる利益なり、關東都督府に於ても熱心に同事に賛成し勸業費を割き己に同實驗の爲めに六千餘圓の金額を投じ其の他製造に要する電流を交流より直流に變更するが如き間接直接に同事業を補助しつゝあり、元來關東州の天日鹽は不純物を含有するにより先づ此の不純物を除去するの要あるを以て此の試驗を行はざるべからず、而も滿州は例年當季降雨皆無なるに本年は如何にしげん雨天續きにて天日鹽を得るに困難なるが天氣恢復次第これが實驗を行ふべし而して天日鹽よりは約九十「パーセント」の「アルカリ」を得又副産物として晒粉を得らる、されば若し此の事業にして成功せば硝子、紙、石鹼、等の如き製造工業に要する「アルカリ」は悉く關東州の生産物を使用し得て外國品の輸入を防止し得るに至るべし云々

因に云ふ同博士は夙に「アルカリ」工業に腐心せられ其の學術的實驗に成功し目下旅順に於て一大規模の「アルカリ」製造の設備を了したる由なり。（林常雄記）

校内雜報

●醫科三年級會記 (十二月十一日)

籬の菊花凋落し早天戸外に霜を置き北國特有の陰鬱の天候續きとなり例年三年級獨特の遠足も期に適せずなりたるを以て明治四十四年度最終の級會を師走十一日金澤病院會議室に開催したり開會時刻午後二時を過ぐる十分

開會の辭

田中吉左衛門君

例の沈重な態度にて處世上に於ては正道を繼道とあり醫者も亦之れに倚らざるべからず之れを用ゆるの適不適は其の人の生存をして意義あらしめ又はなからしむるものなり之れを適當に挨拶調和するが最も重要なものにして人格の表はるゝも亦此れなり即修養さは此の兩道の活用法を修むるものならむ本日の會の如きも亦其の一つたるべしと、君の持論の一端を吐きて降壇

松江常行君

君は我が校講話部の雄將例の快辨を振つて十全會講話部の巡回講話の必要及び有益なる点を列舉して講話部の爲めに會員の勢援を希望せらる

川島俊氏

昔の家塾に於ける學生々活を述べ古も今も兎角運動に熱するの餘り學科を疎にするなきしも非されば諸氏之に省みる所あるべし尙又級の上位にある者は力を頼みて愈り下位にあるもの又愈るの弊あり中位にあるは最も勤勉なるは何れの學校にても見る所なり故に上位にあるもの下位にあるもの互

に相寄り相助けて懶惰に陥るなからむ事を希望せらる

松原級長

拍手に迎へられて温容春の如き先生壇に立たらるゝや滿堂喝を靜めて先生の口より何を言はるゝと竊に待つ如何にして良醫たるを得べきか良醫に達するの道や甚せ多き如きも「ウキーン」の「ノートナール」先生は最も簡明に此の道を表示せられたり即「Tur ein guter Mann kann ein guter Arzt sein」然らば「ゲーテルマン」には如何なしてなるべきか崇高なる人格と圓滿なる常識を措いて他にあるなし故に吾人は人格の修養常識の涵養を忘るべからず又人格を有するも常識を欠けは未だ以て完全たる能はず世上往々にして専門學科には精通するも常識に乏しき人あり世人亦之を尊ぶの風あるも之れは骨董品を愛すると等しくして吾人は此れに與みせず又人格を有するも自己一人のみにて他人に感化を及ぼす事なき仙人的の人格も未だ全たからず要は社會に貢獻する丈の修養を要す而して人格は一朝一夕に進むべきに非ず漸を追ひて向上せしむべきものなれば片時も修養の念を離るべからずと例を或は泰西の先哲に求め或は人腦の作用に偶し時に滑稽諷諷を交へられて淳々として一時間餘り教へられ吾人の腦裡に不滅の印象を刻して降壇せらる

次て當日特に招待したる北陸新聞主筆梅田忍齋氏登壇

一成功と誘惑

梅田忍齋氏

梅田氏の經歷を經とし自己の説を緯として人間は一度び呱呱の聲を擧げて社會の一員となれば屍となりて塋に入る迄は四圍誘惑の絶ゆる隙なし釋迦孔子にも誘惑はありしなり然れ共彼等此れに打ち勝てり大なる誘惑に打ち勝ては大成功者となり小なる誘惑に打ち勝ては小成功者となる反之大なる誘惑に敗るれば大悪となり小なる誘惑に敗るれば小悪となる殊に青年の誘惑として恐るべきは酒色なり諸氏之れに打ち勝つ勇氣なかるべからずと

(附記)北陸紙上會の翌日より數日に亘り同題にて補意布演して戴せありたり諸氏は既に讀まれしなるべし、次で餘興に移る

一、吉野落

松江常行君
田原利崇君

短き冬の日既に没して窓外に暗の緞下らされれば興趣未だ盡きず餘興又山の如く殘れ共時には勝てず惜しくも閉會したり會場を辭して寓居へ急げば風蕭々白雨霏々寒氣肌を刺す (R、M、生)

●第四回小立野俱樂部例會 (十二月十日)

歲晚世事漸く多端ならんとする時我俱樂部本年最終の會は婦人科教室に於て開かれたり當日金澤病院神經科より福田美明氏の臨席を仰ぎ有益なる講話を拜聽するを得たるは誠に吾等が感謝措かざる所なり參會者十七名にして其出演者は左の如し

一、百日咳の最近療法

醫四 正 印 義 正 氏

君は百日咳の本態を論じ治療法の趨勢に及び遂に「カイラチン」の卓効及泰西諸家及本邦諸學者の所説及實驗例を引證し併せて自餘の療法并に其優劣を述べらる

一、晩近治療學の進歩附草津溫泉

全 楠 田 利 一 郎 氏

斯學の進歩は驟々として治療學に於ても理學的療法の研究益々發達し來り殊に「ラヂウム」療法が現今學界の注意を喚起せることを述べ、「ラヂウム」と溫泉との關係を説き終りに君が實地調査せられし草津溫泉の状態を語らる

一、精神病と遺傳との關係

金澤病院醫員 福 田 美 明 氏

先づ遺傳に關する諸大家の見解并に遺傳の經路を説かれ次で世代を重ねる爲めに起る「トランスファーマチオン」に就き胎生學上より詳論あり終り

に本邦及歐米諸學者の統計并に金澤病院神經科患者の統計を示され遺傳が如何に精神病と密接の關係を有するかを述べ而して吾人の体細胞の凡ては個々皆吾人と全様の特質を遺傳す故に遺傳は子孫に大なる影響を與ふるものなりと結ばれたり尙ほ先生は他日本論を公にせらるゝ筈なるにより今茲に略記するに止む

一、前論に對する意見

醫四 楠 田 利 一 郎 氏

君が今夏實地踏査せし飛騨國白川村の因習的血液結婚の結果は身体上に及ぼせる悪影響は甚だ少かりし由を述べらる

一、「カルシウム」鹽類の消炎作用

醫三 久 保 井 末 造 氏

本鹽類の一般作用及「キヤリー」「ヤタケ」の實驗を紹介せられ殊に本鹽類が血管壁の滲濾作用を抑制する効顯著なるを説き就中「クロールカルシウム」は其作用卓越すゝて其用法等を述べられたり

本題に對し福田先生亦自家實驗談等あり互に和氣藹々の間に閉會せり時正に零時十五分戸外は風蕭々たり。(邦)

●館保二、福田美明兩氏送別會 (十二月二十七日)

時維明治四十四年師走の二十七日館保二福田美明兩氏が今度金澤病院を辭し郷里に歸り多年取得されたる敏腕を來る子年の春より振はるゝと聞き茲に眼科神經科が發起となり金城樓に送別の清宴を張りたり午後六時の定刻には市内の主なる病院醫員開業中の知名の士は勿論院内の各部長醫員は來會されたり午後七時開會す高安校長送別の辭に繼ぎ館福田兩氏の答辭ありて後酒宴に移り互に和氣藹々の中に午後十時各自散會せり當日は年末多忙の時期各方面の士會するもの七十有余名近來になき盛會なりしは實に兩氏か院の内外に於て多方面に活動されしを証するに足る此盛會に會の設備万端不行届は幹事我々の謝する所なり

附記館保二氏は三十八年卒業一年志願兵を卒へ眼科醫員及副手として
 今日迄敬腕を振はれたり今後も益斯界の爲め勵精あらん事を祈る
 福田美明氏は四十一年卒業后内科一部に研究中松原博士か歸朝され神
 經精神科、内科一部より獨立する事となりし時拔擢せられて同科の醫
 員に擧げられ創業に際し種々贊策補佐の任を全うし同科の隆盛を謀ら
 れたる功は多大なるものなり(幹事の一人記)

叙任及辭令

●宮内省

明治四十四年十二月十一日

- 叙從五位 正六位勳六等 村上庄太
 全 正六位勳六等 上田計二
 全 正六位勳六等 宮田篤郎
 叙正六位 從六位勳六等 高山基重
 叙從六位 正七位 阿部莊二
 叙正七位 從七位 加藤靜雄
 全 從七位醫學博士 松原三郎

●陸軍省

明治四十四年十一月二十七日

- 陸軍二等軍醫正正六位勳四等功四級 野口滄太郎(三尋)
 叙勳三等授瑞寶章

●海軍省

明治四十四年十二月四日

- 鞍馬軍醫長海軍軍醫中監 鈴木寛之助(三尋)
 免本職補舞鶴海軍工廠軍醫長 筑波軍醫長海軍軍醫少監 中野才幸(三尋)
 免本職補海軍煉炭製造所軍醫長 舞鶴海軍病院附兼舞鶴鎮守府附海軍軍醫少監 大西瀨治(三尋)
 免本職並兼職補舞鶴海兵團附兼見島軍醫長

●金澤醫學專門學校

十二月二十五日

- 金澤醫學專門學校眼科學副手囑託 箱 保 二(三六尋)
 依願囑託ヲ解ク 依願履ヲ解ク 臨時履 梅村兵次

●石川縣

十二月二十一日

- 醫員(神經科) 福田美明(四尋)
 九級俸給與 全(内科二部) 梶川靜夫(四尋)
 全上 全(全上) 松村喜一(四尋)
 十一級俸給與 全(全上) 近藤清吾(四尋)
 全上 全(婦人科) 影山清美(三六尋)
 九級俸給與 全(全上) 中川久成(四尋)
 十二月二十五日

九級俸給與之上依願免職
依願免職
(眼科) 錦保二(三年)
(神經科) 福田美明(四年)

十二月二十八日
金澤病院醫員を命ず
(眼科) 齋藤友一(四年)

十二級俸給與
金澤病院醫員を命ず
(神經科) 萩原忠(四年)

十一級俸給與
(眼科) 佐竹秀一(四年)

人事

●丸山直友氏 (四十二年)卒業后病理學助手及授業補助を勤務せしが今回辭職の上内科二部に研究さる。

●金澤醫學專門學校醫學士號認可 三十七年度卒業の種子田秀吉氏(鹿兒島縣)は過般眼科に關する論文を提出して學士號の檢定請求中なりしが今回學士號を認可さる。

●四十四年度卒業 陸軍依託生の見習醫官藥劑官左の通各隊に分布服務せらるゝ事となりぬ。

- 步兵第二十六聯隊(旭川) 菱川 龍太
- 步兵第十八聯隊(豊橋) 米 多外男 豊田今吉郎
- 步兵第三十五聯隊(金澤)

鈴木 忍 國田武雄 加藤末吉
廣瀬竹次郎 吉澤榮三(藥劑官)
▲四十四年度卒業生小俣幹翁氏は海軍少軍醫に任せられたり。
▲醫學科第三學年堀田愼之氏は海軍軍醫學生を命ぜられたり。
▲四十二年卒業生山本直枝君は病理學研究生を許可せられたり。
▲四十四年卒業生にして内科一部研究生許可せられたる諸君左の如し。
坪井清澄君 南部健一君 阿波加憲吉君
●海軍醫學生囑託 海軍省にて本年より全國專門學校に軍醫學生を囑託するにまじし過般同省より試験委員出張本校生徒中志願者の身体検査を行ひたるが醫學科三年級富山縣出身堀田愼之氏採用さる。

會 告

●自明治四十四年十二月十日校外特別會員會費調書
至明治四十五年一月十五日

金 額	期 限	氏 名
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	栗本保 貞君
金貳圓	自四十四年度二ヶ年分	丹羽立 純君
金參圓	自四十五年度三ヶ年分	山本幹 男君
金壹圓	自四十三年度分	藤井榮四郎君
金四圓	自四十三年度六ヶ年分	山田義 忠君
金五圓	自四十二年度七ヶ年分	樋口平 次君

金貳圓	自四十二年度	林龍	門君	金參圓	自四十三年度	桑折	直君
金五圓	自三十九年度	齊藤賢	德君	金參圓	自四十四年度	增田真	吉君
金五圓	自四十二年度	久津木勝	作君	金貳圓	自四十三年度	山口	榮君
金貳圓	自四十八年度	榑原	久君	金參圓	自四十四年度	黑田道	純君
金參圓	自四十三年度	島田靜	雄君	金貳圓	自四十五年度	布村	祥君
金貳圓	自四十四年度	村田太二	郎君	全	全	八牧政	孝君
金壹圓	自四十三年度	瓜生尹	重君	金貳圓	自四十二年度	森川	修君
金參圓	自四十四年度	木下克	雄君	全	自四十三年度	吉崎郡太	郎君
金參圓	自四十四年度	田邊傳	六君	金參圓	自四十四年度	渡邊常三	郎君
金貳圓	自四十四年度	山下鏝	吾君	金貳圓	自四十六年度	山崎芳太	郎君
金貳圓	自四十二年度	松王數	男君	全	自四十三年度	佐伯亮	齊君
金壹圓	自四十三年度	井上松三	郎君	金壹圓	自四十三年度	鈴木修一	郎君
金參圓	自四十三年度	深澤治三	郎君	金參圓	自四十三年度	高橋常	作君
金貳圓	自四十五年度	八木德太	郎君	金四圓	自四十四年度	鈴木寬之	助君
金貳圓	自四十二年度	石坂直次	郎君	金四圓	自四十五年	藤浪	謙君
全	全	原久	雄君	金參圓	自四十八年度	谷中黎太	郎君
金貳圓	自四十二年度	城石健	治君	金貳圓	自四十二年度	中谷正	範君
金參圓	自四十四年度	伊坂	春君	金貳圓	自四十三年度	小高御四	郎君
金參圓	自四十三年度	白井丈	吉君	金參圓	自四十四年度	吉川孝	作君
金貳圓	自四十五年度	林正	雄君	金參圓	自四十二年度	高谷七兵	衛君
金五圓	自四十二年度	岩佐兵	藏君	金貳圓	自四十四年度	飯塚忠	雄君
金貳圓	自四十八年度	杉部多米	吉君	金五圓	自四十三年度	橋	齋君

金貳圓	自四十二年度	石倉宗嗣君	金壹圓	四十四年度分	加藤慶三君
全	至四十三年度	津川恒君	金壹圓	四十三年度分	富田敦貴君
金六圓	自三十八年度	熊澤清隆君	金參圓	自四十一年度	熊西中藏君
金五圓	自四十三年度	上野貞吉君	金五圓	自四十四年度	松尾等君
金參圓	自四十八年度	山田幸吉君	金貳圓	自四十五年度	山田章一郎君
金貳圓	自四十四年度	塚原千津馬君	全	至四十三年度	久我龜君
金參圓	自四十三年度	朝日晃君	金參圓	自四十二年度	小出貞次郎君
金參圓	自四十五年度	木下倉太郎君	金貳圓	自四十四年度	石橋三也君
金參圓	自四十六年度	山田外來雄君	金壹圓	自四十三年度	佐々木靜君
金壹圓	自四十五年度	植木信親君	金參圓	自四十三年度	山田茂樹君
全	至四十二年度	齊藤義雄君	金四圓	自四十五年度	白井齊君
金貳圓	自四十三年度	桑島柳吉君	金壹圓	自四十八年度	富田直君
金壹圓	自四十三年度	赤尾肇三君	全	四十三年度分	富田保二君
金壹圓	四十三年度分	古丸藤三郎君	金貳圓	自四十二年度	富田寬之君
金貳圓	自三十九年度	伊藤齋君	金參圓	自四十三年度	谷通清君
金參圓	自四十二年度	高井魯一君	全	至四十五年度	吉江乘太郎君
金貳圓	自四十四年度	鎌田勲之助君	金四圓	自四十二年度	千秋了君
金參圓	自四十五年度	須藤庄太郎君	金貳圓	自四十四年度	澤田辰造君
金參圓	自四十四年度	岡田秀造君	金貳圓	自四十三年度	岩崎勝治君
金貳圓	自四十六年度	小泉義久君	金貳圓	自四十四年度	花岡佐太郎君
金貳圓	自四十二年	武會三郎君	全	至四十三年度	加納景成君
金四圓	自四十三年度	星子元真君			

金參圓	自四十四年度五ヶ年分	福田美明君	金四圓	自四十四年度四ヶ年分	伊藤禮二君
金貳圓	自四十八年度二ヶ年分	大木則雄君	金壹圓	自四十三年度四ヶ年分	中島喜作君
金壹圓	自四十二年度分	吉田豐馬君	金參圓	自四十二年度三ヶ年分	伊藤昌平君
金五圓	自三十九年度五ヶ年分	井原悟君	金五圓	自四十二年度五ヶ年分	福山可藏君
金貳圓	自四十二年度二ヶ年分	鈴木實君	金貳圓	自四十四年度二ヶ年分	林山長吉君
金四圓	自四十二年度四ヶ年分	藤井亥之吉君	金七圓	自四十二年度二ヶ年分	小野謙三君
金參圓	自四十四年度五ヶ年分	河合勝君	金貳圓	自三十九年度七ヶ年分	吉田幡誠君
金參圓	自四十八年度三ヶ年分	淺田耕造君	金貳圓	自四十二年度二ヶ年分	中野才幸君
金參圓	全	長村吉太君	全	全	渡邊十治君
金壹圓	全	稻崎重助君	金壹圓	自四十四年度分	德木千秋君
金壹圓	自四十三年度分	林田信平君	金參圓	自四十八年度五ヶ年分	辻井禮太郎君
金貳圓	自四十二年度二ヶ年分	千葉茂君	全	全	小田善壽君
金貳圓	自四十二年度三ヶ年分	松山清君	金貳圓	自四十二年度二ヶ年分	土屋重俊君
金貳圓	自四十二年度三ヶ年分	丸谷熊次郎君	金五圓	自四十二年度七ヶ年分	織田秀時君
金貳圓	自四十二年度三ヶ年分	鈴木幸平君	金貳圓	自四十二年度二ヶ年分	久保武君
金貳圓	自四十二年度二ヶ年分	高桑勇次郎君	金五圓	自四十二年度七ヶ年分	馬淵眞澄君
全	全	吉野新八君	金壹圓	自四十五年度分	菊地文僖君
金參圓	自四十二年度三ヶ年分	佐野爲明君	金壹圓	四十三年度分	中村欣一君
金貳圓	自四十二年度二ヶ年分	北川光雄君	金參圓	自四十三年度三ヶ年分	高野宗重君
金參圓	自四十二年度三ヶ年分	吉村一馬君	金拾圓	自三十九年度十二ヶ年分	高野宗重君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	池田敬一君	金參圓	自四十四年度三ヶ年分	緒原昇榮君
全	全	窪美一久君	以上	以上	月原秀範君